

<未定稿>

名古屋林業土木協会の歴史を探る

～（一社）名古屋林業土木協会創立60周年記念～

令和7年（2025年）10月
一般社団法人名古屋林業土木協会

はじめに



三尾会長

令和7年10月

一般社団法人名古屋林業土木協会
会長 三尾 秀和

（社）名古屋林業土木協会の歴史を探る（草稿）

「林土連10年の歩み（昭和45年11月発行）」から

「林土連20年の歩み（昭和55年11月発行）」から

「林土連30年の歩み（平成3年12月発行）」から

はじめに

1 戦後における土木事業の推移と名古屋営林局のはじまり

昭和22年林政統一によって、名古屋営林局が新設され、愛知、岐阜、富山の3県にまたがる国有林を所管することとなり、当時国有林約178千ha、御料林約76千haを併合し、これに公有林野等官行造林地7,900haを加えて経営することになったのである。しかしその後、林野整備ならびに保安林整備により増加して、現所管（S44時点）国有林は282,377haとなり、これに公有林野等官行造林地14,285haの管理経営にあたっている。

名古屋営林局の管内概要

管内は南北に細長く、東側に北アルプスおよび中央アルプスの1部、ならびに段戸山塊が連なり、西側に白山山系および伊吹山脈が横たわっている。これらの山地は海拔1,500~3,000m前後の高嶽で、剣岳、立山、槍岳、穂高、乗鞍、御岳等3,000m以上の高峰を有し地形は極めて急峻である。これら東西両山系の間に飛騨高原があり、南北の分水嶺をなしており、国有林はこの諸峰の大部分を占めている。

水系は上記分水嶺により大きく南北に分けられる。即ち、北に流れて富山湾に注ぐものに、庄川、神通川（支流に宮川、高原川、）、常願寺川、早月川、片貝川、黒部川等があり、特に立山に源を発する常願寺川は急勾配をもつ急流河川で全国的に有名である。南に流れる木曽川（支流に長良川、揖斐川、飛騨川）、庄内川は伊勢湾に、矢作川、豊川は三河湾に注いでいる。

地質は、北アルプスの北部より神岡町付近にかけて花崗岩および花崗片麻岩が広く分布し、焼岳より乗鞍、御岳に至る一帯は安山岩類が覆っている。白山周辺および飛騨高原1帯は主として濃飛流紋岩類で占められている。木曽川以南より愛知県におよぶ一帯は花崗岩地帯であるが、庄内川流域から矢作川流域にかけては第三紀層でハゲ山が多い。また三河湾から段戸山塊にかけては領家変成岩が分布している。

ア 林道等の施設の推移

当時の管内の林道施設の現況は、総延長563km、そのうち森林鉄道一級線が27km、

同二級線が 227 km、自動車道 213 km、車道 63 km、という状況で森林鉄道と自動車道が半ばしており、自動車道の占める割合とが比較的高かった。林道密度は 1ha あたり 3.1m であり、これに貯木場 34ha を所管していたのである。戦前の状況は明治 32 年の特別経営事業の中で、高山営林署川上岳で明治 34 年に森林軌道が新設され、次いで付知、新城(段戸)が明治 38 年までに林道が新設されたのが最初である。森林鉄道は付知営林署加子母に大正 9 年に開設されており、昭和 8 年岐阜、高山間を連絡する高山本線の工事が小坂町まで開通することになり、同 8～9 年に経費 216,000 円をもって、小坂駅より下島に至る 8.5km を建設するなど、管内の森林鉄道は大正時代後半から昭和十年代にかけて建設されている。

しかし戦後は前述の林道等の施設の荒廃がひどく、急速に整備改良を行う必要があったが、復旧等のための建設資材の入手が極めて困難であり、熟練労務の確保も容易にできず、また社会秩序の混乱、人心の動揺、食糧、予算不足等の悪条件が重なり、戦後の混乱期における林道整備は容易でなかったのである。昭和 25 年頃からは、土木事業もようやく軌道にのるとともに内容も充実し、再建の基礎を固めるに至った。この頃は若干の森林鉄道と自動車道が伸びているが、なお既存施設の復旧に重点がおかれていた。また一方、自動車の急速な発達と搬出費の有利性から、既存の森林鉄道を自動車道に切替えることとなり、また林道の新設は自動車道とすることに改められた。当局の森林鉄道が自動車道への切替えに着手したのは、昭和 30 年の小坂署兵衛森林鉄道、中津川署恵那山森林鉄道の改良が最初で、昭和 32 年当局の生産力増強計画が策定されるとともに、林道事業の合理化の重点として、森林鉄道の撤去と自動車道の整備拡充がとりあげられ、森林鉄道の自動車道への改良、新設が進展し、昭和 30 年代は森林鉄道の自動車道移行の時代となったのである。そして管内の森林鉄道撤去工事が殆どの路線に着工され、昭和 38 年には森林鉄道一級線が完了するとともに、同二級線も昭和 41 年にはほぼ終了したのである。そして自動車道は昭和 22 年の 213km から、昭和 45 年には 1,158km と約 6 倍に拡充され、さらにその後も自動車道の整備拡充がはかられた。

イ 治山事業の推移

名古屋営林局発足当時は土木課で管轄実行してきたが、昭和 23 年 6 月造林課管轄となり、さらに事業の進展に伴い昭和 28 年 2 月には局に治山課が新設され実行体制も整理された。一方署の体制も、昭和 36 年富山署および神岡署に治山課が設けられたが、31 年機構改革により一時廃止され、35 年再度富山署に治山課を設置し、次い



昭和40年9月の台風で土石流のため埋没した岐阜県下の農家。豪雨を契機として土砂で家屋が埋没する場合、山崩れの直撃を受けて起こること、山崩れで生まれた土砂が一たん谷底に堆積して、それが二次的に流動し土石流となって被害をあたえることがある。この山地災害は後者の例である。

岐阜県本巣郡黒津村（現在は本巣市根尾黒津地区）

で42年6月岐阜署に設置され、実行体制の治山事業所は富山6、岐阜2、荘川、中津川、小坂、神岡に各1、計12が置かれ全て署実行としその大部分を請負で実行した。

a 国有林治山事業

昭和22年から24年頃までは富山、花川の一部営林署で実行された程度であったが、昭和25年度より治山事業拡張政策がとられ、国有林内にも一般会計で実施する等の方法が講ぜられた。その後の相つぐ災害により、昭和28年治山治水基本対策要綱が制定され、28年度を初年度とする治山10ヵ年計画が樹立され、当局の治山事業の基礎が確立された。

b 民有林直轄治山事業

名古屋営林局発足時、岐阜県土岐市地方の民有林治山事業が農林省直轄より営林局へ移管され局直轄として実行された。この治山事業は歴史も古く、昭和7年度に時局匡救事業として着工し、昭和12年度からは第二期森林治水事業として戦時中も廃止されることなく、営林局移管後も引続き実行された。施工された山腹工は1,576ha、投入された労力は175万人を越え、投資額は現在の工事費に換算すると約71億円という大事業を完成し、昭和45年1月、37年の長きに亘る治山事業に終止符を打った。

その他管内における民有林直轄は、昭和 23 年度から昭和 27 年度まで岐阜県揖斐郡地方で実施し、昭和 27 年度から昭和 29 年度まで岐阜県大野郡白川地内内で実施したが一時中断し 35 年再び白川村地内で実施し、42 年度に完了した。昭和 43 年度から直轄治山事業全体計画に基づき岐阜県揖斐川地区と富山県早月川地区で実施された。

c 保安林買入と治山事業

昭和 29 年保安林整備臨時措置法が制定され重要流域の水源地帯の民有保安林の買入れ事業が行なわれた。昭和 29 年度には 9,533 品と大面積の買入れが行なわれたが、その後は概ね 1,000ha 前後の買入を行ない、昭和 44 年度末迄に 35,677ha を買入れたその内最も多いのは富山営林署の 20,877ha、58.5%、次いで岐阜営林署の 9,557ha、古川営林署 2,667ha の順となっていた。

2 名古屋林業土木協会の設立

名古屋営林局傘下の土建業者が組織をつくろうとして名古屋市丸栄ホテルに参集したのは昭和 31 年 4 月であり、この時参加した人員は約 70 名であった。

会の名称は「名営山和会」と命名し、会長には中部建設株式会社社長 塩崎真次氏が就任した。

この名営山和会は申し合せ団体で会則はなく主として業者間の統制が目的であった。したがって昭和 33 年 8 月塩崎氏が会長を辞任すると同時に名営山和会は解散した。

塩崎氏が退任した翌月(昭和 33 年 9 月 16 日)新たに「名営建設協会」の設立総会が名古屋市内の香取旅館で行われた。このとき発起人の設立案内には、

「此の際同業者が緊密強力な組織を持つことは業者共存の理想」と趣旨を述べ約 15 名を招集した。

この設立総会には故石谷憲男先生(林野庁長官を昭和 33 年 6 月 6 日退官)が退官挨拶をかね遠路わざわざご臨席され祝詞を述べられた。

石谷先生は長官在職当時から林業土木業者に対して「大同団結して技術の向上と経営基盤の強化を図るよう」会う業者ごとに説かれた。

この総会では全文 15 条からなる定款を定め活動方針は第 4 条に『本会は会員相互の協力および技術の向上を図り関係官庁との連絡を緊密にし事業の完遂を期す』

と定め、名営山和会よりは内容も前進し、初代会長には株式会社大東建設社長秀山英吉氏が就任した。

名古屋林業土木協会のスタートはここに始ったようなもので、営林局も強力的に事業の発注に留意をいただき一つの型ができたといっってよいと思われる。

翌昭和 34 年 9 月 26 日、東海一帯を伊勢湾台風が襲い百年に一度という風速 60 m の風雨に、木も、家も、一夜にして倒れ、流されてしまった。伊勢湾を北上した台風は名古屋西部から岐阜県を抜けて、貴重な木曽ヒノキの美材の多くを風倒木とし、林道は決壊し土砂は流出した。協会員は日夜を忘れ復旧に協力し、「一日も早く復旧材の搬出を」の一助になった。国有林材が東海の一般市場で評価されたのもこの時であった。併せて林業土木の実力もこの時から大きく評価された。

森林鉄道は昭和 30 年から撤去が始まり、林道に切替えられ、昭和 35 年治山治水緊急措置法の制定と共に治山 10 ヶ年計画がたてられた。

昭和 37 年秀山英吉氏が会長を辞任し、大日本土木(株)名古屋支店長田口栄氏が就任と同時に職員を採用し、協会の事務が軌道に乗り出した。従って会員も立派な協会の育成に励み、営林局の理解もあって、事業量も遂次増加していった。

昭和 35 年在京有志によって各局単位にある林業土木協会の全国組織の協会の設立の呼びかけにより当協会もその趣旨に沿って全国組織に加盟することとなった。

昭和 40 年に至り、法人化のための趣意書「森林を合理的に経営し、森林のもつ有機的な機能を一層向上せしめることによって、資源の培養、生産力の増強および国土の保全を図ることは、わが国の林業における重大な使命である。林道および治山の両事業は、これらの課題に応える林業の基礎となる事業で、従来から実施されてきたところであるが、近年、事業量の著しい増大、機械化の導入および新工法の開発ならびに、労務、資材および金融等諸状勢の著しい変化に伴い、技術の向上経営基盤の確立等林業の近代化対策が重要な問題となっている。これ等の要請に応えるため、ここに名古屋営林局管内における有志相図り、林業土木事業の発展を通じ林業の振興に 寄与する目的をもって、名古屋林業土木協会を設立しようとするものである。」

従来の名営建設協会を発展的に解散し、(社)名古屋林業土木協会の設立に進んでいった。愛知県林務課のご理解とご指導をうけて、昭和 40 年 10 月 8 日付をもって、県知事より農林大臣に申請されていた社団法人の認可を得ることができ、新たな定款などが制定され、名実とも基礎ができた。

同年 3 月、専任の事務局長、前中津川営林署長(元高知局総務部長)西尾利一氏を起用し、4 月、土地付事務所(名古屋市西区外田町番地：木造瓦葺き 2 階建)を購入し(後に 3 階建を新築)協会の拡大をはかった。

法人化後の協会活動

法人化による社会的地位を認められ、協会活動として局技術者を講師として現場代理人、主任技術者の研修を開催し技術の向上に努めるとともに、協会に治山、林道部会を設置し技術的な課題及び現場管理工程の改善に取りくんだ。

重点的に実施した項目は次の4つであった。

- 1、コンクリートの研修
- 2、林道の設計及び測量
- 3、ブルトーザの運転技術の研修(試験合格者 66 名)
- 4、ケーブルクレーンの研修

特に昭和 40 年頃の会計検査にえん提の成果判定にドリルで穴をあけ、注水による検査が実施されて以来コンクリートの研修に力を入れ、当局にもご指導を願い、非常に進歩して来た時代でもあった。

昭和 41 年、治山工事コンクールが始まった。また、林道コンクールは昭和 46 年から夫々開始された。

昭和 42 年、営林局では林道全体計画を作成昭和 65 年を目途に 2600 km(内訳既設 1170km)年平均 68 kmの開設計画であったが、実体は相当下廻る結果となっている。

一方治山工事は昭和 35 年治山治水緊急措置法の制定によって、急速に工事量が増加しコンクリートえん提に加えて鋼製えん提が、山腹もブロックと更に種子の吹付けを航空機による空中散布と省力化、機械化に発展していった。

昭和 42 年 1 月、田口栄会長は東京支店長として御栄転されたため辞意を表明され、1 月の定時総会で付知土建株式会社社長三尾隆夫氏(副会長)が選出された。

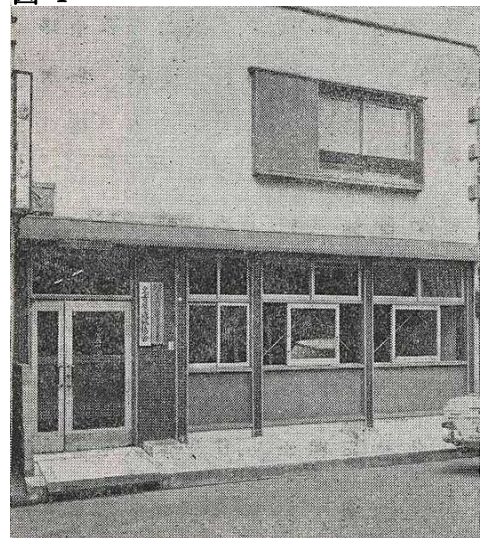
昭和 44 年には全国秋の総会が下呂を中心に開催され、全国から多数参加され盛大に催された。

昭和 46 年には事務局長病気で交代があり前営林局監査課長竹内定氏が 8 月に就任された。

同年秋、事務所の老朽化により協会活動に支障もあり、新築建替え(鉄骨造 3 階建延 270 m²)を行い輝しき林業土木の発展に寄与するにふさわしい建物として林業土木会館(1、2 階を貸室、3 階が協会事務所兼会議室)が

開館した。【図 1】昭和 55 年には市営地下鉄鶴舞線が延長され、浅間町駅が開設され同駅より 1 分の好立地であった。(この路線は、後に犬山市から豊田市を結ぶ名鉄電車の市内線に接続された。)

図 1



昭和 47 年、岐阜県東濃、愛知県西三河奥地に集中豪雨あり死者も続出し、山地災害で、土砂が流出、家屋、田畑及人畜に多大の損害を与えた。中央から関係官庁、国会議員の現地調査が続き、連日陳情合戦であった。業界も現地の道路確保に協力、更に年末から年度末にかけての復旧に、全力を傾注し早期に復旧を実施した。これらの集中豪雨は翌々年、三河の集中豪雨、昭和 51 年 9 月 17 号台風による長良川災害で、荘川、古川営林署、昭和 53 年の御岳周辺の豪雨と連年災害が発生し、治山の重要性、水資源に対する国民の関心は高まりつつあった。

昭和 51 年、林業土木連合協会 10 周年記念として過去 10 ヶ年間に治山・林道工事コンクールを 5 回以上入賞した 3 社が特別表彰された。

付知土建(株) 三尾隆夫 岩佐土建 岩佐正六 (株)佐々木工務店 佐々木澄典

この頃より、機械施行が主体となって、自主施行管理を確実に実施するため、協会の研修は益々強力な計画のもとに、徹底した現場重点主義をとり、昭和 52 年から 4 ヶ年計画で完全な自主施行管理の実施体制に入った。

第 1 年目の日程を紹介すれば

請負工事のあり方(自主施行管理)、施工管理上の留意点について、現場代理人、主任技術者の職務(事務管理および手続)

第 2 年目は、

自主施工管理体制の確立、受注者のあり方、事務管理、施工管理について、現地指導などが一例である。

当局の信頼を獲得し、林業土木事業は協会員に安心してまかせられるまでに成長し、国有林経営に大きな協力団体となった。

昭和 54 年 2 月第 13 回日本林業土木連合会の総会において三尾隆夫会長は林土連協会長に就任し、更に昭和 60 年に 2 度目、昭和 62 年 3 度目と、連合協会長に選任され、国有林野の業務改善下の林業土木、水資源問題と重大な時期に、その重責を果たすべく全力を尽くしてその推進に当たられた。特に再任されてご逝去の昭和 63 年 2 月までの 3 期 5 年間、森林と水問題に対して積極的な意欲をもって取り組み、水源税の創設には会長として東京常駐のように上京し、全力をあげて努力されたが、創設に至らず、昭和 63 年の「緑と水の森林基金」への礎石となった。三尾会長は、昭和 53 年秋に藍綬褒章を受章され、昭和 62 年には勲 4 等旭日小授章を受章された。氏は昭和 21 年に三尾組を結成、森林土木工事請負業を始めて以来、林野庁関係工事請負に専念し、昭和 31 年には林業土木事業について技術の向上、経営基盤の強化及び労務管理の充実を図るため、管内の林業土木業者を積極的に取りまとめ、昭和 31 年に名

営山和会、昭和 33 年に名営建設協会に名称変更と同時に副会長に就任した。また、地方自治には昭和 30 年より昭和 53 年まで町会議員として副議長 1 年、議長 4 年間就任し地方自治に貢献した功績は極めて大きく、このことが受章の対象となり、献心的努力を重ねた結果であり、協会史に輝かしい一頁をかざったのである。昭和 40 年 10 月、社団法人に認可され、昭和 42 年、田口栄会長にかわって会長に推されて、昭和 63 年 2 月 27 日に現職のままご逝去されるまでの間、林業土木技術の向上、労働災害防止等について、最高責任者として、業界の発展はもとより、地域振興及び国土保全に大きく貢献された。

昭和 55 年 10 月、秋の全国臨時総会が名古屋市において開催され、これを契機に名古屋林業土木協会に青年部会が創設された。青年部会は、全国秋季臨時総会を名古屋



で開催するに当たり受入れ体制はどのようにすべきか、再三準備会で打合わせをした結果、(1)各役員社より青年を 1 名、(2)不足の場合は名古屋、岐阜周辺より 1 名を参加させ、各協会単位、バス、宿舎毎に 1 名配置して到着より出

発までお世話する。この準備として、5 月名古屋で 1 泊 2 日の泊り込みで部会を開催し、併せて部員の親睦を図った。

また、二世を中心として将来の林業土木のあり方について、各方面より講師を招いた研鑽



日本林業土木連合協会秋季臨時総会中京大会 於明治村

が重ねられ、講師には経済界、経営コンサルタント、官公庁より 3~4 名を招いて実施したが、その後は営林局長に講師をお願いするなどして今日に至っている。

治山、林道部会（現在は安全・技術対策委員会と環境・社会貢献委員会）は各支部またはブロック毎に 1 名を招集して年 2 回行い、1 回は現地検討会、1 回は陳情と問題点の解明に当たるなど、発注者と受注者との意志疎通の場として大いに役立っている。特に、現場検討会はそれぞれの現場の事情、改善策を積極的に発言して、自主施

工への自信を深めるなど、その成果が期待されている。

昭和 57 年、社長研修として監督署単位のブロック毎に、監督署、発注者、受注者の三者による安全研修として開始し、労働災害の防止と安全意識の啓蒙普及に取り組んだ。この取り組みは、内外から非常に高い評価を受けた。（平成元年から安全点検を開始した。）

昭和 63 年、岐阜市で『ぎふ未来博』が「人がいる。人が語る」をテーマに岐阜県の活性化と中部圏の一体化を目指して開催され、協会も岐阜県林材業振興協議会の一員とし参画し支援した。専用のパビリオン「緑と木とむら」には、95 万人の入場者を迎えた。

翌、平成元年 7 月からは、名古屋市で『世界デザイン博』が開催され、白鳥のメイン会場が旧熱田貯木場(市に売却)であり、一部に名古屋営林支局の需要開発センターと木材販売所があり、「木と緑の賛歌」、として暮らしの木材展示館、ウッドキャリー、木造住宅を紹介する木と住まい白鳥展示場が整備され、この中の木曾五木(ヒノキ、サワラ、ヒバ、コウヤマキ、ネズコ)のモニュメントを、名古屋林業土木協会が協賛して造成した。



世界デザイン博での木曾五木モニュメント
下は施工中の基礎部分



一般社団法人名古屋林業土木協会のSDGs宣言

令和3年4月1日

会長 三尾 秀和

一般社団法人名古屋林業土木協会は、岐阜、愛知、富山管内の国有林内の林業土木に携わる会員の技術の向上、経営基盤の強化等に関する事業を行い、もって国土の保全及び地球環境の保全並びに林業土木事業の発展に寄与することを目的として活動している団体です。建設業としての林業土木は森林の保全インフラ整備や防災、更には環境、エネルギーといった人々の暮らしに大きく深くかわかりこれを担っている業界。まさにSDGsのあらゆる局面に関与しています。フォレストサポーターズ活動にも積極的に参加し、日々研鑽し、地域に必要とされる林業土木業界として活動します。

SDGsの考え方である、精神的な豊かさや価値観が合う生き方、共感社会になっていくという動きを理解して、我々協会員一人一人が本気でSDGsを行動につなげ、お客様や地域から信頼され、持続可能な地域社会の創造に貢献できるように尽力していきます。

一般社団法人名古屋林業土木協会は、SDGsを社会貢献の一つとして考えるのではなく『一致団結し確実な協会活動を行うこと＝SDGsの目標達成』と考えています。



引用文献

- 「林土連 10 年の歩み（昭和 45 年 11 月林土連発行）」
- 「林土連 20 年の歩み（昭和 55 年 11 月林土連発行）」
- 「林業土木写真集」（林土連設立 20 周年記念、昭和 55 年 2 月林土連発行）
- 「林土連 30 年の歩み（平成 3 年 12 月林土連発行）」
- 「世界デザイン博覧会」協会協賛写真集（平成元年開催）
- 「日本の災害」名古屋タイムズ社（昭和 51 年 5 月 10 日発行）
- 「第十六回通常総会及び第十一回名営開発㈱株主総会」写真集
- 「昭和 55 年度林土連秋季臨時総会 中京大会」関係写真集）

60年の年表（協会の動き、社会の動き等）

年 月	協会関係の主な動き	その他社会の動き・出来事
昭和22.4	林政統一、帝室林野局名古屋支局から名古屋営林局発足。	
23		福井地震、死者3,769人
24		農林省設置法改正、林野庁改称
25	第1回全国植樹祭開催	朝鮮動乱始まる
28.2	名古屋営林局治山課を経営部に設置し、7係制で発足。 中津川営林署管内で集中豪雨、死者5名、負傷7名。	吉田内閣バカロー解散 株価暴落（スターリン暴落）
29		米水爆実験「第五福竜丸」被爆
31.4	「名古屋山和会」発足、会長に、塩崎眞次氏(中部建設株式会社社長)就任。	経済自衛「もはや戦後ではない」流行
32	名古屋営林局新庁舎、名古屋市中区三の丸に落成。	カラーテレビ実験放送開始
33.9	名栄三和会を解散し「名古屋建設協会」を設立、会長に、秀山英吉氏(株式会社大東建設社長)就任。 台風11号による集中豪雨で岐阜県に大被害。	阿蘇山大爆発、12人死亡 1万円札発行 東京タワー完工
34.9	伊勢湾台風(死者4,137人,行方不明636人)協会は緊急復旧材搬出に協力する。	黒部トンネル開通
35	治山治水緊急措置法制定。営林署に管理官配置。	日本林業土木連合協会設立
36		第2室戸台風死者202人
37	治山課,土木課に設計指導官を置く。	東京、世界初の1000万都市に
38	秀山英吉会長辞任、田口栄副会長(大日本土木株式会社名古屋支店長)が会長に就任	北陸豪雪、死者不明84人
39		東海道新幹線開通。
40.10	社団法人名古屋林業土木協会として認可登記、設立日:1965年10月20日 田口栄氏 初代会長に就任。 専任事務局長に西尾利一氏（前中津川営林署長、元高知局総務部長）就任	ベトナム戦争激化 中国文化大革命 夕張62人、福岡炭鉱事故237死亡
41	治山工事コンクールが実施される。以後、毎年数社が優良工事表彰される。	政界の黒い霧事件続発
42.1	田口栄会長辞任、会長に 三尾隆夫副会長（付知土建株式会社社長）就任。 ヘリコプターによる緑化事業始まる。	林土連永田町ビルへ移転
43	岐阜県根尾村で直轄治山事業始まる。	飛騨川バス転落事故
45	土岐治山事業所(直轄)、38年間の事業終了する。	大阪万国博覧会開催
10	林土連秋の臨時総会が下呂町で開催される。	
46	西尾利一事務局長辞任、竹内定氏（前名古屋営林局監査課長）事務局長に就任。 林道工事コンクール始まる。	環境庁設置 円変動相場制へ移行
9	名古屋開発(株)設立登記し、貸事務所、林産物・建設資材販売等のほか、知多市佐布里の「佐布里里池整備事業、水源の森造成事業」を実行	
47.7	三河、東濃地方に集中豪雨、被害9億円を越す。	冬季オリンピック札幌大会 沖縄が日本に正式復帰
48		第一次オイルショック、狂乱物価
50.8	中央自動車道恵那山トンネル（8,489m）開通。	国有林野特別会計は赤字に
51.1	治山コンクール10周年記念として、10年間で5回入賞の3社表彰される。	(社)国有林林道安全協会設立 ロッキード事件
53.4	竹内 定 事務局長辞任、加藤銈市氏（前熱田営林署長）就任。 三尾隆夫会長藍綬褒章受章。	国有林野事業改善特措法施行(国有林野事業改善計画策定)
11		
54.2	三尾隆夫会長、日本林業土木連合協会会長に就任。 全国植樹祭愛知県藤岡村で実施。	国公立大共通一次試験開始 第2次オイルショック 御嶽山有史以来の噴火
5		
55.10	林土連秋季全国臨時総会が名古屋市、岐阜市で開催。 名古屋林業土木協会青年部会発足する。	過疎地域振興特別措置法施行
56.1	青年部の規約を定める	56豪雪（東北、北陸中部地方）

57.6	社長研修を安全講習に切り換え、労働基準監督署毎に開催。	林野庁が森林浴構想を発表
58.9	東濃地方に集中豪雨、被害発生。	分収育林制度創設
59.9		長野県西部地震
60.2	三尾隆夫会長、林土連会長に就任(2回目)。 分収育林契約3口、150万（七宗国有林、昭和92年まで）	長野営林局と名古屋営林局統合 水源税実現全国総決起大会開催
61.4 8	三尾隆夫会長、勲四等旭日小授章受章。 名古屋営林局は8月1日より支局となり規模縮小。	東京サミット開催 林道技術基準制定
62.2 7	三尾隆夫会長、林土連会長再任（3回目） 緊急経済対策のため補正予算が成立し、治山予算30億円を越す。	国鉄民営化 ブラックマンデー（株価大暴落）
63.3 7 11	三尾隆夫会長逝去、後任会長に金子太一副会長(金子工業株式会社社長)が就任。 「ぎふ中部未来博」(岐阜市)に林業関係団体として協賛。 「緑と水の森林基金」創設（全会員は平成3年までの5年間で875万円を寄付）	青函トンネル開通 森林インストラクター発足
平成7	名古屋「世界デザイン博」開催され協賛参加し木曽五木モニュメントに協力	昭和天皇崩御、みどりの日制定 ベルリンの壁崩壊
2.4	加藤銈市事務局長退任、中谷正也氏（前岐阜営林署長）就任。	雲仙普賢岳200年ぶりに噴火 林政審議会答申
3	金子太一会長退任、会長に梅田桂一 理事(株式会社梅田組社長) 就任	台風17～19号で森林に大災害 バブル経済崩壊 国有林野事業改善計画の策定
4	名古屋営林支局庁舎が熱田白鳥へ新築移転 H・G・P（ヒューマン・グリーン・プラン）構想始まる	担当区事務所、同主任を、森林事 務所、森林官に改称
5.5	名営開発(株)、解散	北海道南西沖地震 40年ぶり冷夏で米不作、外米輸入
6	熱田区一番一丁目の工場建物（鉄骨造、亜鉛鋼板葺）を土地とともに購入し、事務 室仕様に改築、西区浅間町の事務所から移転。名古屋造林素材生産事業協会、(社) 林道安全協会並びに(社)日本木材信用協会と事務室貸室賃貸借契約を締結 名古屋営林支局のウッディランドフェア「森の感謝祭」に協力（餅つき）	関西国際空港開港 北海道東方沖地震
7	梅田桂一会長退任、会長に長瀬利治 理事（株式会社長瀬土建社長）就任 名古屋市西区浅間町の旧事務所敷地売却 名古屋営林支局、ウッディランドフェア「森の感謝祭」協力	阪神・淡路大震災 地下鉄サリン事件
8	名古屋営林支局、ウッディランドフェア「森の感謝祭」協力 創立30周年記念、分収育林契約(法人の森)10口500万円（一色国有林、2056年まで）	長野県小谷村土石流災害
9	中谷正也事務局長退任、長谷川明弘氏（前東濃森林管理署中津川事務所長）就任。	京都議定書の締結
10	立山カルデラで研修会開催	国有林野事業改革特措法等施行 長野冬季オリンピック開催
11	名古屋営林支局が名古屋分局に名称変更 森の感謝祭に変わり「木楽市」が開催され協力。付知町神宮備林で研修会実施。	国有林野事業抜本的改革、7局、 98森林管理署へ整理
12	東海豪雨・恵南豪雨災害で上矢作町を中心に甚大な山地災害 「木楽市」で押し寿司セット販売	有珠山が23年ぶりに噴火 伊豆諸島群発地震、三宅島噴火
13.10	林土連秋季全国臨時総会名古屋市で開催。「木楽市」雪滑り台制作	森林・林業基本法施行 公共工事の入・契法施行 中央省庁再編
14	「木楽市」雪滑り台制作	官製談合防止法施行 森林吸収源10ヵ年対策」策定
15	青年部研修会を富山森林管理署管内で開催	熊本県水俣市で大規模土石流 宮城県北部地震 台風10号日本列島縦断
16	名古屋分局廃止、中部森林管理局名古屋事務所が設置	新潟県中越地震、拉致被害者帰国 国有林抜本改革終了、4支局廃止 電子入札の導入。年金未納問題
17	愛知万博「愛地球博」開催 青年部研修会、関中部森林管理局長講演。松井正 林土連専務理事講演	公共工事の品確法施行 郵政民営化、京都議定書発効 木づかい運動開始、中部空港開港
18	飛騨森林管理署管内庄川治山事業視察。トヨタ白川郷自然学校視察 定光寺自然休養林での「緑のフェスティバル」に協力	森林・林業基本計画改正

19 5	瀬戸市定光寺自然休養林視察 長瀬利治会長藍綬褒章受章。	新潟県中越沖地震災害 緑資源機構の廃止 美しい森林づくり推進国民運動
20 12	長瀬利治会長退任、会長に梅田豊 理事(株式会社梅田組) 就任 林土連技術現地研修会(札幌、恵庭、登別市) 長谷川明弘事務局長退任、前原正晴氏(前飛騨森林管理署長) 就任。 富山署管内白萩治山工事現場視察	リーマンショック 国有林ボランティア制度の発足 岩手・宮城内陸地震災
21	林土連技術現地研修会(雲仙市) 「法令遵守の徹底と社会貢献活動の推進」を名古屋協会決議 岐阜森林管理署板取川地区治山事業地視察	政権交代、民主党内閣誕生「コン クリートから人へ」、事業仕分け 森林・林業再生プラン策定
22	林土連技術現地研修会(下呂、高山市) 飛騨森林管理署管内穂高国有林(白出沢) 復旧治山事業地視察。	参院選挙で民主党が大敗 「生物多様性条約会議(COP10)」 公共建築物木材利用促進法施行
23	「国際森林年」で各協賛事業に協力 豊橋国有林で開催された「いのちの森づくり」(宮協昭) 植樹祭に協力	東日本大震災 福島原発事故 新潟・福島豪雨、台風12号災害
24 12	白山国立公園50周年記念の研修活動として白山周辺での外来種除去作業 林土連技術現地研修会(京都市) 一般社団法人としての認可	衆院選挙民主党が歴史的惨敗。 自民党政権に復帰、アベノミクス公表
25	安全・技術対策、環境・社会貢献の両委員会とコンプライアンス委員会、青年部規約を規定 伊勢神宮式年遷宮、御神木の里研修、二代目大ヒノキ散策路整備作業 木材利用促進として「エコエコ休憩ハウス」(現場休憩所) の取組 林土連技術現地研修会(花巻市)	国有林野事業一般会計化 富士山世界文化遺産に登録 参院選で自民・公明両党が過半数
26	「川上の情報を川下で発信する」(事務所壁面に掲示板設置) 取り組み開始 「よみがえる御嶽」長野県西部地震復興30周年シンポジウム 中部局森林技術交流発表会で「よりよいパートナーを目指して」を発表 林土連技術現地研修会(松本市)	国土強靱化法、「担い手3法」改正、 長寿命化計画策定、消費税8%に 広島土砂災害、御嶽山噴火
27.7	前原正晴事務局長退任、宮口裕之氏(前愛知森林管理事務所長) 就任。 林土連技術現地研修会(福島県相馬市) 協会創立50周年(名古屋市「郷土の森」と「熱田白鳥の歴史館」の整備に協力)	マイナンバー制度スタート 北陸新幹線長野～金沢延伸
28	林土連技術現地研修会(高知市) 公益目的支出計画の実施完了 ブナクラ谷復旧事業地視察と富山県開催の全国植樹祭会場整備に協力	熊本地震(震度7)、「山の日」制定 日本の人口、初の減少へ
29.7	宮口裕之事務局長退任、洞口儀弘氏(前伊那谷総合治山事務所長) 就任。 林土連技術現地研修会(東京都江東区) 「御岳自然休養林」登山道整備に協力	九州北部豪雨災害 森林環境税創設 流木災害防止緊急治山対策開始
30	林土連技術現地研修会(旭川市) 青年部が林野庁幹部講演会並びに国会議事堂見学	7月豪雨災害、台風21,24号 防災・減災、強靱化3か年対策開始
31 令元	板取川地区民有林直轄治山事業に隣接する滝波谷流域を区域拡大し復旧に着手 梅田豊会長逝去、後任会長に三尾秀和副会長(付知土建株式会社社長) が就任。 金華山国有林(通称:ストロー谷) 清掃活動 名古屋林業土木協会ホームページ開設、協会事務所外装修繕工事	徳仁天皇即位。新元号「令和」 森林環境税と税開始消費税10% 台風5,8,10号風水害、8月豪雨
2	建設ICT等講習会開催 コロナ禍で各種行事の中止と書面決議総会、リモート会議	新型コロナ発生(緊急事態宣言) 7月豪雨、台風10,14号被害 ESD「選ばれる森林土木」開始
3	名古屋林業土木協会SDGS宣言 林土連技術現地研修会(鹿児島市)	1月記録的大雪、7,8月豪雨 東京オリパラピック(無観客) 岸田内閣発足
4.7 10	洞口儀弘事務局長退任、千葉求氏(前東濃森林管理署長) 就任。 林土連技術現地研修会(名古屋市) でデジタル技術の事例発表(㈱加藤工務店)	ロシアがウクライナ侵攻 各地で8月豪雨、台風14,15号災害
5	林土連技術現地研修会(仙台市)、第1回ESD林野庁キャラバン 青年部が名古屋市郷土の森整備と中部森林管理局長講演会開催	コロナ5類へ、梅雨豪雨、記録的 猛暑、台風6,7,13号被害
6	能登半島地震被災地へ応急対策のための資材を緊急搬送(ブルーシート1,200枚、大型土嚢2,000) 林土連技術現地研修会(広島市) 参議院議員会館で青年部研修会(藻谷浩介氏講演、林土連及び札幌協会青年会議共催)	能登半島地震(M7.6震度7)、20年 ぶり新紙幣、闇バイト事件、政治資 金キックバック問題、石破茂新内閣
7.5 6 10	能登半島地震被災地支援における活動に対し農林水産大臣感謝状受賞 札幌協会青年会議との交流会議を開催 創立60周年記念行事開催(記念講演会と記念祝賀会) 林土連技術現地研修会(軽井沢町)	令和の米騒動、大阪万博開催 ガソリン等物価高騰、賃上げ要請 トランプ 関税交渉

役員、会員、委員名簿

一般社団法人名古屋林業土木協会

役員

会長	三尾 秀和
副会長	高平 公輔
〃	長瀬 雅彦
〃	安藤 和央
理事	加藤 勝
〃	所 克仁
〃	杉浦 仁司
〃	梅田 桂司
〃	野中 豊
〃	安達 正彦
〃	金子 広孝
〃	加藤政太郎
監事	小坂健太郎
〃	佐々木典博
専務理事	千葉 求



三尾会長

会員 (59名)

新栄建設(株)	代表取締役社長	高平 公輔
酒井建設(株)	取締役社長	酒井 健吉
宮口建設(株)	取締役社長	宮口 久喜
伊藤建設(株)	代表取締役	伊藤 甚幸
安達建設(株)	代表取締役	安達 正彦
中越興業(株)	代表取締役社長	山下 博
大高建設(株)	代表取締役社長	大橋 聡司
(株)東城	代表取締役	吉田 信一郎
(株)神高	代表取締役	井上 英司
(有)境工業所	代表取締役	境 康好
(有)下仲組	代表取締役	下仲 真幸
森本建設(株)	代表取締役	松葉 慶一
加藤土木(株)	取締役社長	加藤 勝
加永建設(株)	代表取締役	加藤 仁徳
坂本土木(株)	代表取締役	坂本 重雄
宝興建設(株)	代表取締役	上木 弘道
(株)洞口	代表取締役社長	洞口 修一
(業)H・C建設	代表理事	堂前 弘一
(株)柳組	代表取締役会長	柳 七郎
(株)谷上組	代表取締役	杉浦 仁司
(株)清水建設	代表取締役	清水 昭徳
(株)林工務店	代表取締役	林 俊宏
(株)水口土建	代表取締役	奥原 正一
(株)青木組	代表取締役	青木 良明
(株)大山土木	代表取締役社長	大山 顕寿
(株)長瀬土建	代表取締役	長瀬 雅彦
ナガイ(株)	代表取締役	村上 勉
金子工業(株)	代表取締役社長	金子 健一郎
(株)熊崎組	代表取締役社長	熊崎 靖之

(株)梅田組	代表取締役	梅田 桂司
今井建設(株)	代表取締役	今井 紀彦
大脇建設(株)	代表取締役	大脇 健太郎
(株)曾我組	代表取締役	曾我 美香
日下部建設(株)	代表取締役社長	日下部 元保
松田建設(株)	代表取締役	松田 欣也
付知土建(株)	代表取締役	三尾 秀和
(株)加地工務店	代表取締役	加地 宣彦
田口土木(株)	代表取締役	田口 宗甫
(株)中島工務店	代表取締役	中島 紀于
(株)佐々木工務店	代表取締役	佐々木 典博
(株)矢野土木	代表取締役	矢野 克也
(株)阿佐木建設	代表取締役	佐々木 宏之
(有)共和土木	代表取締役	堀 豊次
大宗土建(株)	代表取締役	杉山 一樹
三留野土建(株)	代表取締役	森 正人
(株)加藤工務店	代表取締役社長	加藤 政太郎
小坂建設(株)	代表取締役	小坂 健太郎
森建設(株)	代表取締役	森 真由美
橋本建設(株)	代表取締役	橋本 伸一
西濃建設(株)	代表取締役社長	宗宮 郷
田中建設工業(株)	代表取締役	田中 義巳
(株)所組	代表取締役社長	所 克仁
黒田建設(株)	代表取締役	黒田 英嗣
青協建設(株)	代表取締役社長	波多野 篤志
(株)尾割組	代表取締役	尾割 洋介
今泉建設(株)	代表取締役	今泉 光俊
(株)安藤	代表取締役	安藤 和央
(株)杉田組	代表取締役	杉田 昌巳
(株)遠山建設	代表取締役社長	遠山 浩久

賛助会員

名古屋造林素材生産事業協会	会長	美谷添里恵子
(株)ライズ	代表取締役	依田 光宏

2025年10月1日現在

青年部役員・部員名簿

青年部役員

部 長	金子 広孝
副部長	安藤 智規
〃	三尾 隆介
幹 事	矢木 克之
〃	加藤 仁成



金子部長

部 員 (59会員企業中、55社55名)

新栄建設(株)	取締役営業部長	高 平 侑	(株)熊崎組	専務取締役	熊崎 将太
酒井建設(株)	専務取締役営業部長	伊東 良朗	(株)梅田組	代表取締役	梅田 桂司
宮口建設(株)	代表取締役専務	宮口 慶太	日下部建設(株)	代表取締役社長	日下部 元保
伊藤建設(株)	営業部次長	矢木 克之	松田建設(株)	代表取締役	松田 欣也
安達建設(株)	代表取締役専務	安達 立展	(株)曾我組	取締役社長	曾我 大介
中越興業(株)	営業部課長	中村 憲治	大脇建設(株)	常務取締役	伊藤 巧
大高建設(株)	専務取締役	大橋 賢生	今井建設(株)	取 締 役	今井 健太
(株)東 城	代表取締役	吉田信一郎	付知土建(株)	常務取締役	三尾 隆介
(株)神 高	取締役工務部長	塚原 農	(株)加地工務店	常務取締役	加地 守一
(有)境工業所		境 智範	田口土木(株)	代表取締役	田口 宗甫
(有)下仲組	取 締 役	下仲 克幸	(株)中島工務店	取締役営業部長	武田 省司
森本建設(株)	工事部長	大上 裕一	(株)佐々木工務店	代表取締役	佐々木 典博
加藤土木(株)	取締役専務	加藤 善	(株)矢野土木	代表取締役	矢野 克也
加永建設(株)	専務取締役	加藤 仁成	(有)共和土木	代表取締役	堀 豊次
坂本土木(株)	専務取締役	坂本 忠司	大宗土建(株)	代表取締役社長	杉山 一樹
宝興建設(株)	建設部	中西 正人	三留野土建(株)	代表取締役社長	森 正人
(株)洞 口	専務取締役	洞口 修二	(株)加藤工務店	代表取締役	加藤政太郎
(業)H・C建設	専務理事	辻 正行	小坂建設(株)	土木部土木課長	小坂 孝二
(株)柳 組	取 締 役	柳 憲嗣	森建設(株)	専務取締役	森谷 誠
(株)谷上組	代表取締役	杉浦 仁司	橋本建設(株)	工務部長	井口 高広
(株)清水建設	専務取締役	清水 重昭	西濃建設(株)	土木部課長	五十君 正人
(株)林工務店	営業部長	柚原 千幸	田中建設工業(株)	常務取締役	田中 英伸
(株)水口土建	専務取締役	水口 靖之	(株)所 組	常務取締役	後藤 千夏
(株)青木組	代表取締役	青木 良明	黒田建設(株)	代表取締役	黒田 英嗣
大山土木(株)	代表取締役社長	大山 顕寿	青協建設(株)	営業部マネージャー	服部 弘二
(株)長瀬土建	工事部	味岡 大輔	(株)安 藤	専務取締役	安藤 智規
ナガイ(株)	専務取締役	村上 聡	(株)杉田組	工事部管理課長	杉田 大地
金子工業(株)	岐阜支店長	金子 広孝			

55名

安全・技術対策委員会及び環境・社会貢献委員会

「安全・技術対策委員会」		「環境・社会貢献委員会」	
委 員 長 野中 豊 (林土連技術対策委員)		委 員 長 安達 正彦	
副委員長		副委員長	
支 部 名	委員氏名	所属会社	備 考
富 山	大橋 賢生	大高建設 (株)	
神 岡	下仲 真幸	(有) 下仲組	
古 川	堂前 弘一	(業) H・C 建設	
久々野高山	青木 良明	(株) 青木組	
荘 川	小坂 秀昭	小坂建設 (株)	
小 坂	金子健一郎	金子工業 (株)	
岐 阜	五十君正人	西濃建設 (株)	
付 知	曾我 誠	付知土建 (株)	
中 津 川	佐々木典博	(株) 佐々木工務店	
坂 下	加藤政太郎	(株) 加藤工務店	
愛 知	尾割 洋介	(株) 尾割組	

コンプライアンス委員会

委 員 長 安 藤 和 央 (愛知支部長)			
支 部 名	委員氏名	所属会社	備 考
久々野高山	長瀬 雅彦	(株)長瀬土建	副会長
富 山	高平 公輔	新栄建設(株)	副会長
久々野高山	野中 豊	大山土木(株)	理事
富 山	安達 正彦	安達建設(株)	理事
	千葉 求	事務局	事務局長

歴代役員名簿

名古屋林業土木協会 歴代役・職員名簿

令和7年9月作成

	昭和40年度	昭和43・44年度	昭和47年度	昭和51・52年度	昭和53・54年度	昭和57・58・59・60年度	昭和61年度	昭和62年度
会 長	大日本土木(株) 田口 栄	付知土建(株) 三尾 隆夫	付知土建(株) 三尾 隆夫	付知土建(株) 三尾 隆夫	付知土建(株) 三尾 隆夫	付知土建(株) 三尾 隆夫	付知土建(株) 三尾 隆夫	付知土建(株) 三尾 隆夫
副会長	付知土建(株) 三尾 隆夫	(株) 栄組 平井良太郎	(株) 栄組 平井良太郎	(株) 栄組 平井良太郎	(株) 栄組 平井良太郎	大日本土木(株) 奥村 辰一	大日本土木(株) 奥村 辰一	大日本土木(株) 奥村 辰一
	(株) 栄組 平井良太郎	大日本土木(株) 奥村 辰一	大日本土木(株) 奥村 辰一	大日本土木(株) 奥村 辰一	大日本土木(株) 奥村 辰一	金子工業(株) 金子 太一	金子工業(株) 金子 太一	金子工業(株) 金子 太一
理 事	勝田組富山出張所 更田 幸作	酒井建設(株) 酒井喜代吉	酒井建設(株) 酒井喜代吉	酒井建設(株) 酒井喜代吉	酒井建設(株) 酒井喜代吉	新栄建設(株) 高平 公嗣	新栄建設(株) 高平 公嗣	新栄建設(株) 高平 公嗣
	協立土建(株) 辻 永吉	協立土建(株) 辻 永吉	協立土建(株) 辻 永吉	協立土建(株) 辻 永吉	(有)下仲 組 下仲 一夫	酒井建設(株) 酒井 真次	宮口建設(株) 宮口 久則	宮口建設(株) 宮口 久則
	(株)佐々木工務店 佐々木義広	(有)下仲 組 下仲 一夫	(有)下仲 組 下仲 一夫	(有)下仲 組 下仲 一夫	(株)洞口 洞口 修平	(有)下仲 組 下仲 一夫	(有)下仲 組 下仲 一夫	(有)下仲 組 下仲 一夫
	(株)渡辺組 渡辺 永一	(株)佐々木工務店 佐々木義広	(株)佐々木工務店 佐々木義広	(株)佐々木工務店 佐々木義広	(株)佐々木工務店 岡山喜八郎	(株) 洞口 洞口 修平	(株) 洞口 洞口 修平	(株) 洞口 洞口 修平
	金子工業(株) 金子 太一	(株)渡辺組 渡辺 永一	(株)水口土建 水口太郎松	(株)水口土建 水口太郎松	(株)水口土建 水口太郎松	(株)佐々木工務店 田中 政郎	(株)技研土木 二村 静男	(株)技研土木 二村 静男
	大栄土木(株) 松下 博	金子工業(株) 金子 太一	金子工業(株) 金子 太一	金子工業(株) 金子 太一	金子工業(株) 金子 太一	(株)水口土建 水口 秀雄	(株)水口土建 水口 秀雄	(株)水口土建 水口 秀雄
	小坂建設(株) 小坂 藤松	(株)梅田組 梅田 桂一	(株)梅田組 梅田 桂一	(株)梅田組 梅田 桂一	(株)梅田組 梅田 桂一	(株)梅田組 梅田 桂一	(株)梅田組 梅田 桂一	(株)梅田組 梅田 桂一
	(有)加藤建設 加藤 虎雄	大栄土木(株) 松下 博	大栄土木(株) 松下 博	大栄土木(株) 松下 博	大栄土木(株) 松下 博	(株)佐々木工務店 佐々木澄典	(株)佐々木工務店 佐々木澄典	(株)佐々木工務店 佐々木澄典
		小坂建設(株) 小坂 藤松	小坂建設(株) 小坂 藤松	小坂建設(株) 小坂 藤松	小坂建設(株) 小坂 藤松	小坂建設(株) 小坂 藤松	小坂建設(株) 小坂 藤松	小坂建設(株) 小坂 藤松
		(有)加藤建設 加藤 虎雄	(有)加藤建設 加藤 虎雄	(有)加藤建設 加藤 虎雄	(有)加藤建設 加藤 虎雄	加藤 哲夫	(株)安藤組 安藤 勝啓	(株)安藤組 安藤 勝啓
				(株)安藤組 安藤 富雄	(株)安藤組 安藤 富雄	(株)安藤組 安藤 富雄		
	(常務理事) 西尾 利一	(常務理事) 西尾 利一	(常務理事) 西尾 利一	(常務理事) 西尾 利一	(常務理事) 加藤 銈市	(常務理事) 加藤 銈市	(常務理事) 加藤 銈市	(常務理事) 加藤 銈市
監 事	(株)梅田組 梅田 桂一	(株)田中組 田中 定吉	(株)安藤組 安藤 富雄	竹宮建設(株) 武市 寅雄	竹宮建設(株) 武市 寅雄	竹宮建設(株) 武市 寅雄	竹宮建設(株) 武市 寅雄	竹宮建設(株) 武市 寅雄
	(有)下仲 組 下仲 一夫	宮口建設(株) 宮口 久則	宮口建設(株) 宮口 久則	宮口建設(株) 宮口 久則	宮口建設(株) 宮口 久則	宮口建設(株) 宮口 久則	酒井建設(株) 酒井 真次	酒井建設(株) 酒井 真次
事 務 員								

昭和63・平成元 年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7・8年度	平成9年度	平成10年度
金子工業㈱ 金子 太一	金子工業㈱ 金子 太一	㈱梅田組 梅田 桂一	㈱梅田組 梅田 桂一	㈱梅田組 梅田 桂一	㈱梅田組 梅田 桂一	㈱梅田組 梅田 桂一	㈱長瀬土建 長瀬 利治	㈱長瀬土建 長瀬 利治
大日本土木㈱ 奥村 辰一	大日本土木㈱ 奥村 辰一	大日本土木㈱ 奥村 辰一	大日本土木㈱ 奥村 辰一	大日本土木㈱ 奥村 辰一	大日本土木㈱ 奥村 辰一	新栄建設㈱ 高平 公嗣	新栄建設㈱ 高平 剛	新栄建設㈱ 高平 剛
	新栄建設㈱ 高平 公嗣	新栄建設㈱ 高平 公嗣	新栄建設㈱ 高平 公嗣	新栄建設㈱ 高平 公嗣	新栄建設㈱ 高平 公嗣	高橋 昭	㈱安藤組 安藤 勝啓	㈱安藤組 安藤 勝啓
新栄建設㈱ 高平 公嗣	酒井建設㈱ 酒井 真次	酒井建設㈱ 酒井 真次	酒井建設㈱ 谷口 伸示	酒井建設㈱ 谷口 伸示	酒井建設㈱ 谷口 伸示	酒井建設㈱ 谷口 伸示	酒井建設㈱ 酒井美奈子	酒井建設㈱ 酒井美奈子
宮口建設㈱ 宮口 久則	森本建設㈱ 森本 隆	森本建設㈱ 森本 隆	森本建設㈱ 森本 隆	森本建設㈱ 森本 隆	森本建設㈱ 森本 隆	森本建設㈱ 森本 隆	森本建設㈱ 森本 隆	森本建設㈱ 森本 隆
㈱ 洞口 洞口 修平	㈱ 洞口 洞口 修平	㈱ 洞口 洞口 修平	㈱ 洞口 洞口 修平	㈱谷上組 谷上 辰雄	㈱谷上組 谷上 辰雄	㈱谷上組 谷上 辰雄	(業)H・C建設 辻 哲夫	(業)H・C建設 辻 哲夫
㈱技研土木 二村 静男	㈱秋山組 秋山 芳保	㈱秋山組 秋山 芳保	㈱長瀬土建 長瀬 利治	㈱長瀬土建 長瀬 利治	㈱長瀬土建 長瀬 利治	㈱長瀬土建 長瀬 利治	金子工業㈱ 金子 文一	金子工業㈱ 金子 文一
㈱技研土木 二村 静男	㈱技研土木 二村 静男	㈱技研土木 二村 静男	牛丸建設㈱ 牛丸 吉雄	牛丸建設㈱ 牛丸 吉雄	金子工業㈱ 金子 文一	金子工業㈱ 金子 文一	㈱梅田組 梅田 安郎	㈱梅田組 梅田 安郎
㈱梅田組 梅田 桂一	㈱梅田組 梅田 桂一	牛丸建設㈱ 牛丸 吉雄	付知土建㈱ 三尾 秀和	付知土建㈱ 三尾 秀和	付知土建㈱ 三尾 秀和	付知土建㈱ 三尾 秀和	付知土建㈱ 三尾 秀和	付知土建㈱ 三尾 秀和
㈱佐々木工務店 佐々木忠義	付知土建㈱ 三尾 秀和	付知土建㈱ 三尾 秀和	㈱佐々木工務店 佐々木忠義	㈱佐々木工務店 佐々木忠義	㈱佐々木工務店 佐々木忠義	㈱佐々木工務店 佐々木忠義	㈱佐々木工務店 佐々木忠義	㈱佐々木工務店 佐々木忠義
小坂建設㈱ 小坂 勝美	㈱佐々木工務店 佐々木忠義	㈱佐々木工務店 佐々木忠義	小坂建設㈱ 小坂 勝美	小坂建設㈱ 小坂 勝美	小坂建設㈱ 小坂 勝美	小坂建設㈱ 小坂 勝美	小坂建設㈱ 小坂 勝美	小坂建設㈱ 小坂 勝美
㈱安藤組 安藤 勝啓	小坂建設㈱ 小坂 勝美	小坂建設㈱ 小坂 勝美	㈱安藤組 安藤 勝啓	㈱安藤組 安藤 勝啓	㈱安藤組 安藤 勝啓	㈱安藤組 安藤 勝啓	松島 毅	松島 毅
	㈱安藤組 安藤 勝啓	㈱安藤組 安藤 勝啓	㈱尾割組 尾割 洋介	㈱尾割組 尾割 洋介	㈱尾割組 尾割 洋介			
(常務理事) 加藤 銈市	(常務理事) 加藤 銈市	(専務理事) 中谷 正也	(専務理事) 中谷 正也	(専務理事) 中谷 正也	(専務理事) 中谷 正也	(専務理事) 中谷 正也	(専務理事) 中谷 正也	(専務理事) 長谷川明弘
竹宮建設㈱ 武市 寅雄	宮口建設㈱ 宮口 久喜	宮口建設㈱ 宮口 久喜	宮口建設㈱ 宮口 久喜	宮口建設㈱ 宮口 久喜	宮口建設㈱ 宮口 久喜	宮口建設㈱ 宮口 久喜	宮口建設㈱ 宮口 久喜	宮口建設㈱ 宮口 久喜
酒井建設㈱ 酒井 真次	竹宮建設㈱ 武市 寅雄	竹宮建設㈱ 武市 寅雄	竹宮建設㈱ 武市 寅雄	竹宮建設㈱ 武市 寅雄	竹宮建設㈱ 武市 寅雄	西濃建設㈱ 宗宮 正和	西濃建設㈱ 宗宮 正和	西濃建設㈱ 宗宮 正和

	平成11・12・13 年度	平成14年度	平成15・16 年度	平成17・18 年度	平成19年度	平成20年度	平成21・22・ 23・24年度	平成25・26 年度
会 長	㈱長瀬土建 長瀬 利治	㈱長瀬土建 長瀬 利治	㈱長瀬土建 長瀬 利治	㈱長瀬土建 長瀬 利治	㈱長瀬土建 長瀬 利治	㈱梅田組 梅田 豊	㈱梅田組 梅田 豊	㈱梅田組 梅田 豊
副会長	新栄建設㈱ 高平 剛	新栄建設㈱ 高平 剛	新栄建設㈱ 高平 剛	新栄建設㈱ 高平 剛	新栄建設㈱ 高平 剛	新栄建設㈱ 高平 剛	新栄建設㈱ 高平 剛	新栄建設㈱ 高平 剛
	㈱安藤組 安藤 勝啓	㈱安藤組 安藤 勝啓	㈱安藤組 安藤 勝啓	㈱安藤組 安藤 勝啓	㈱安藤組 安藤 勝啓	㈱安藤組 安藤 勝啓	㈱安藤組 安藤 勝啓	㈱安藤組 安藤 勝啓
					付知土建㈱ 三尾 秀和	付知土建㈱ 三尾 秀和	付知土建㈱ 三尾 秀和	付知土建㈱ 三尾 秀和
理 事	酒井建設㈱ 酒井美奈子	酒井建設㈱ 酒井美奈子	酒井建設㈱ 酒井美奈子	酒井建設㈱ 酒井美奈子	酒井建設㈱ 酒井美奈子	酒井建設㈱ 酒井美奈子	宮口建設㈱ 宮口 久喜	宮口建設㈱ 宮口 久喜
	(有)下仲組 下仲 國夫	(有)下仲組 下仲 國夫	(有)下仲組 下仲 國夫	(有)下仲組 下仲 國夫	森本建設㈱ 松葉 慶一	森本建設㈱ 松葉 慶一	森本建設㈱ 松葉 慶一	加藤土木㈱ 加藤 勝
	(業)H・C建設 辻 哲夫	(業)H・C建設 辻 哲夫	(業)H・C建設 辻 哲夫	㈱ 柳組 柳 七郎	㈱ 柳組 柳 七郎	㈱ 柳組 柳 七郎	㈱ 柳組 柳 七郎	㈱ 谷上組 谷上 祐志
	金子工業㈱ 金子 文一	金子工業㈱ 金子 文一	金子工業㈱ 金子 文一	金子工業㈱ 金子 文一	金子工業㈱ 金子 文一	㈱林工務店 林 俊宏	㈱林工務店 林 俊宏	㈱林工務店 林 俊宏
	㈱梅田組 梅田 安郎	㈱梅田組 梅田 豊	㈱梅田組 梅田 豊	㈱梅田組 梅田 豊	㈱梅田組 梅田 豊	岩佐土木㈱ 新井 雅	岩佐土木㈱ 新井 雅	㈱林工務店 林 俊宏
	付知土建㈱ 三尾 秀和	付知土建㈱ 三尾 秀和	付知土建㈱ 三尾 秀和	付知土建㈱ 三尾 秀和	㈱佐々木工務店 佐々木忠義	㈱佐々木工務店 佐々木忠義	㈱佐々木工務店 佐々木忠義	岩佐土木㈱ 新井 雅
	㈱佐々木工務店 佐々木忠義	㈱佐々木工務店 佐々木忠義	㈱佐々木工務店 佐々木忠義	㈱佐々木工務店 佐々木忠義	小坂建設㈱ 小坂 勝美	小坂建設㈱ 小坂 勝美	小坂建設㈱ 小坂 勝美	㈱佐々木工務店 佐々木忠義
	小坂建設㈱ 小坂 勝美	小坂建設㈱ 小坂 勝美	小坂建設㈱ 小坂 勝美	小坂建設㈱ 小坂 勝美	㈱ 所組 所 克仁	㈱ 所組 所 克仁	㈱ 所組 所 克仁	小坂建設㈱ 杉之下 豊
	松島 毅	岡 忠史	㈱ 所組 所 克仁	㈱ 所組 所 克仁	西濃建設㈱ 宗宮 正和	西濃建設㈱ 宗宮 正和	西濃建設㈱ 宗宮 正和	㈱ 所組 所 克仁
	西濃建設㈱ 宗宮 正和	西濃建設㈱ 宗宮 正和	西濃建設㈱ 宗宮 正和	西濃建設㈱ 宗宮 正和				西濃建設㈱ 宗宮 正和
	(専務理事) 長谷川明弘	(専務理事) 長谷川明弘	(専務理事) 長谷川明弘	(専務理事) 長谷川明弘	(専務理事) 長谷川明弘	(専務理事) 長谷川明弘	(専務理事) 前原 正晴	(専務理事) 前原 正晴
監 事	宮口建設㈱ 宮口 久喜	宮口建設㈱ 宮口 久喜	宮口建設㈱ 宮口 久喜	宮口建設㈱ 宮口 久喜	宮口建設㈱ 宮口 久喜	宮口建設㈱ 宮口 久喜	㈱長瀬土建 長瀬 雅彦	㈱長瀬土建 長瀬 雅彦
	下村 修身	下村 修身	下村 修身	下村 修身	倉 武	倉 武	倉 武	倉 武
事 務 員	丹羽 順子	丹羽 順子	丹羽 順子	植村 昭子	植村 昭子	植村 昭子	石原壽美子	石原壽美子

平成27年度	平成28年度	平成29・30 年度	平成31年度	令和2年度	令和3・4年度	令和5・6年度	令和7年度～
㈱梅田組 梅田 豊	㈱梅田組 梅田 豊	㈱梅田組 梅田 豊	付知土建㈱ 三尾 秀和	付知土建㈱ 三尾 秀和	付知土建㈱ 三尾 秀和	付知土建㈱ 三尾 秀和	付知土建㈱ 三尾 秀和
新栄建設㈱ 高平 剛	新栄建設㈱ 高平 剛	新栄建設㈱ 高平 剛	㈱安藤組 安藤 和央	㈱安藤組 安藤 和央	㈱安藤組 安藤 和央	㈱安藤 安藤 和央	㈱安藤 安藤 和央
㈱安藤組 安藤 和央	㈱安藤組 安藤 和央	㈱安藤組 安藤 和央	㈱ 所組 所 克仁	㈱ 所組 所 克仁	㈱ 所組 所 克仁	新栄建設㈱ 高平 公輔	新栄建設㈱ 高平 公輔
付知土建㈱ 三尾 秀和	付知土建㈱ 三尾 秀和	付知土建㈱ 三尾 秀和	新栄建設㈱ 高平 公輔	新栄建設㈱ 高平 公輔	新栄建設㈱ 高平 公輔	㈱長瀬土建 長瀬 雅彦	㈱長瀬土建 長瀬 雅彦
宮口建設㈱ 宮口 久喜	宮口建設㈱ 宮口 久喜	宮口建設㈱ 宮口 久喜	加藤土木㈱ 加藤 勝	加藤土木㈱ 加藤 勝	加藤土木㈱ 加藤 勝	加藤土木㈱ 加藤 勝	加藤土木㈱ 加藤 勝
加藤土木㈱ 加藤 勝	加藤土木㈱ 加藤 勝	加藤土木㈱ 加藤 勝	㈱ 柳組 柳 七郎	㈱ 柳組 柳 七郎	㈱ 柳組 柳 七郎	㈱ 柳組 柳 七郎	㈱ 谷上組 杉浦 仁司
㈱ 谷上組 谷上 祐志	㈱ 柳組 柳 七郎	㈱ 柳組 柳 七郎	㈱長瀬土建 長瀬 雅彦	㈱長瀬土建 長瀬 雅彦	㈱長瀬土建 長瀬 雅彦	㈱熊崎組 新井 雅	㈱ 梅田組 梅田 桂司
㈱林工務店 林 俊宏	㈱林工務店 林 俊宏	㈱長瀬土建 長瀬 雅彦	㈱熊崎組 新井 雅	㈱熊崎組 新井 雅	㈱熊崎組 新井 雅	㈱ 所組 所 克仁	㈱ 所組 所 克仁
岩佐土木㈱ 新井 雅	㈱熊崎組 新井 雅	㈱熊崎組 新井 雅	㈱梅田組 梅田 桂司	㈱技研ユニ ティ 八賀 重彦	㈱技研ユニ ティ 八賀 重彦	金子工業㈱ 金子 広孝	金子工業㈱ 金子 広孝
㈱佐々木工務店 佐々木忠義	㈱佐々木工務店 佐々木忠義	㈱佐々木工務店 佐々木忠義	㈱技研ユニ ティ 八賀 重彦		安達建設㈱ 安達 正彦	安達建設㈱ 安達 正彦	安達建設㈱ 安達 正彦
小坂建設㈱ 杉之下 豊	小坂建設㈱ 杉之下 豊	小坂建設㈱ 杉之下 豊			大山土木㈱ 野中 豊	大山土木㈱ 野中 豊	大山土木㈱ 野中 豊
㈱ 所組 所 克仁	㈱ 所組 所 克仁	㈱ 所組 所 克仁				㈱加藤工務店 加藤政太郎	㈱加藤工務店 加藤政太郎
西濃建設㈱ 宗宮 正和	西濃建設㈱ 宗宮 正和	西濃建設㈱ 宗宮 正和					
㈱安藤組 安藤 智規	㈱安藤組 安藤 智規	安達建設㈱ 安達 正彦					
(専務理事) 前原 正晴	(専務理事) 宮口 裕之	(専務理事) 宮口 裕之	(専務理事) 洞口 儀弘	(専務理事) 洞口 儀弘	(専務理事) 洞口 儀弘	(専務理事) 千葉 求	(専務理事) 千葉 求
㈱長瀬土建 長瀬 雅彦	㈱長瀬土建 長瀬 雅彦	伊藤建設㈱ 伊藤 甚幸	伊藤建設㈱ 伊藤 甚幸	伊藤建設㈱ 伊藤 甚幸	伊藤建設㈱ 伊藤 甚幸	小坂建設㈱ 小坂健太郎	小坂建設㈱ 小坂健太郎
伊藤建設㈱ 伊藤 甚幸	伊藤建設㈱ 伊藤 甚幸	大山土木㈱ 野中 豊	㈱佐々木工務店 佐々木典博	㈱佐々木工務店 佐々木典博	㈱佐々木工務店 佐々木典博	㈱佐々木工務店 佐々木典博	㈱佐々木工務店 佐々木典博
石原壽美子	石原壽美子	石原壽美子	宮口 裕之	宮口 裕之	宮口 裕之	洞口 儀弘	

歴代の青年部役員と主な活動履歴

年度		昭和55	56	59	60	平成3	4	5	6	8
青年部役員	部 長			高平公嗣 新栄建設	→	金子文一 金子工業	小坂安彦 小坂建設	秋山正博 秋山組	安藤和央 安藤組	山下英明 中越興業
	副部長			谷口伸示 酒井建設	→	→	→	→	→	金子猛司 金子工業
				小坂安彦 小坂建設	→	→		杉田昌巳 杉田組	佐々木義之 阿佐木土木	中川敏徳 ロック建設
				加藤哲夫 加藤建設		秋山正博 秋山組	→			
				金子文一 金子工業	→					
	幹事			伊藤甚幸 伊藤建設	→	宗宮功德 西濃建設	→	→	秋山正博 秋山組	高原真作 水口土建
				山下春男 山下組	→	安藤和央 安藤組	→	→	金子猛司 金子工業	黒田芳弘 黒田建設
				水口 斉 水口組	→	杉田昌巳 杉田組	→			
				梅田 豊 梅田組	→					
				三尾秀和 付知土建	→					
				佐々木忠義 佐々木工務店	→					
				橋本克一 橋本建設	→					
				宗宮正和 西濃建設	→					
部員数				30人	38人	33人	39人	38人	36人	34人
青年部研修会ほか取り組み等		昭和五十六年八月二十五日、青年部規約制定							名古屋営林支局、ウツデイランドフェア「森の感謝祭」協力依頼。青年部会で延べ十人、餅つき。経費二十三万	同上。経費十四万円

9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
→	→	→	→	下仲真幸 下仲組	新井 雅 岩佐土木	→	→	加地宣彦 加地工務店	安藤和央 安藤組
小林貞之 金子工業	→	梅田 通 梅田組	→	→	五十君正人 西濃建設	→	→	酒井健吉 酒井建設	奥原正一 水口土建
杉田昌巳 杉田組	→	天野文彦 鈴木組	→	小坂秀昭 小坂建設	安藤和央 安藤組	→	→	尾割洋介 尾割組	金子広孝 金子工業
→	→	洞口修一 洞口	下仲真幸 下仲組	沢崎正志 伊藤工業	池原正人 新栄建設	→	→	洞口修二 洞口	山下 博 中越興業
→	→	加地宣彦 加地工務店	→	杉田昌巳 杉田組	青木良明 青木組	→	→	金子広孝 金子工業	森谷 誠 森建設
35人	37人	41人	48人	47人	48人	47人	47人	47人	49人
「健康作り」講習会開催 研修会「御岳ヒューマングリーンプラン視察」開催。親睦ゴルフ。懇親会費用徴収。支局会議室で	研修会を立山カルデラで開催	名古屋営林支局が名古屋分局に。森の感謝祭に変わ り「木楽市」開催協力。 研修会を付知町神宮備林で開催。	「木楽市」押し寿司セット販売。研修会愛知森林管理事務所管内視察	「木楽市」雪滑り台制作。研修会飛騨森林管理署蒲田治山事業所視察。林土連秋期臨時総会開催協力	「木楽市」雪滑り台制作。研修会、飛騨森林管理署管内視察	研修会、富山森林管理署管内視察	分局廃止。名古屋事務所に。 東濃森林管理署管内視察	研修会、長野・関局長講演。東京・松井林土連専務講演	研修会、飛騨森林管理署管内庄川治山事業視察。トヨタ白川郷自然学校視察

年度		19	20	21	22	23	24	25	26	27
青年部役員	部 長	→	宮口慶太 宮口建設	→	青木良明 青木組	→	五十君正人 西濃建設	→	安藤智規 安藤組	→
	副部長	→	栃元幸生 久保建設	谷上祐志 谷上組	五十君正人 西濃建設	→	尾割洋介 尾割組	→	佐々木典博 佐々木工務店	→
		→	→	→	安藤智規 安藤組	→	野中 豊 大山土木	→	金子広孝 金子工業	→
		幹事	→	五十君正人 西濃建設	→	安達正彦 安達建設	→	井上智敬 富建設	→	吉田信一郎 東城
	→		尾割洋介 尾割組	→	金子広孝 金子工業	→	→	→	小峠真治 森本建設	→
	部員数		49人	47人	48人	49人	48人	47人	47人	
青年部研修会ほか取り組み等		研修会、 瀬戸市定光寺自然休養林視察	研修会、 富山森林管理署白萩治山視察。総会時安全勉強会	研修会、 岐阜森林管理署板取川地区治山事業視察。総会時安全関係勉強会	研修会、 飛騨森林管理署管内穂高国有林（白出沢）復旧治山事業視察。総会時会員と名古屋事務所による勉強会開催	研修会、「国際森林年」協賛事業に協力。 愛知大学豊橋校舎視察と豊橋国有林「いのちの森づくり」植樹祭及び記念講演会（宮脇昭博士）	レクサスパートナー協定記念白山国立公園50周年記念の研修及び外来種除去作業	伊勢神宮式年遷宮の年、御神木の里で研修及び二代目大ヒノキ散策路歩道整備作業に取り組む	「よみがえる御嶽」現地視察 長野県西部地震復興30周年シンポジウム	「林業北陸サミット会議」参加

28	29	30	令和元	2	3	4	5	6	7
→	→	安達正彦 安達建設	八賀重彦 技研ユニティ	→	→	→	金子広孝 金子工業	→	→
→	→	辻 正行 H・C建設	安藤智規 安藤組	→	→	→	安藤智規 安藤	→	→
→	→	→	加藤政太郎 加藤工務店	→	→	→	塚原 農 神高	→	三尾隆介 付知土建
→	→	曾我 誠 付知土建	山下 博 中越興業	→	→	→	大上裕一 森本建設	→	矢木克之 伊藤建設
→	→	安藤智規 安藤組	金子広孝 金子工業	→	→	→	三尾隆介 付知土建	→	加藤仁成 加永建設
						55人	55人	55人	55人
ブナクラ谷復旧治山工事視察 & 全国植樹祭会場整備に協力	視察 「御岳自然休養林」 登山道整備、高地トレセンター	林野庁幹部講演会並びに国会議事堂見学	金華山国有林（ストロー谷）清掃活動	建設ICT等講習会	五色ヶ原の森登山道補修を計画（コロナ禍により中止）JAFEE主催森林技術者講習会へ参加	林土連技術現地研修会名古屋会場運営と講演会「災害に強い森林の施業の考え方」と「デジタル技術を活用した工事事例」	名古屋市長「郷土の森」整備と講演会「森林・林業・木材産業政策の動向と国有林の役割について」（講師：中部森林管理局長）	有識者（藻谷浩介氏）と林野庁幹部講演会（参議院議員会館）※林土連、札幌協会青年会議との連携開催	札幌林業土木協会青年会議との交流会議創立60周年記念行事開催（記念講演会と記念祝賀会）

各賞受賞者名簿

農林水産大臣感謝状

林野庁長官感謝状

林土連会長表彰

林野庁治山・林道工事コンクール

農林水産大臣感謝状受賞者

年度	会社名	代表者	役職
昭和50年 (林土連15周年)	付知土建(株)	三尾 隆夫	会長
平成17年 (林土連45周年)	(株)長瀬土建	長瀬 利治	会長

林野庁長官感謝状受賞者

年度	会社名	代表者	役職	年度	会社名	代表者	役職
昭和38年	(有)下仲組	下仲 一夫	監事	平成10年	宮口建設(株)	宮口 久喜	監事
昭和40年	加藤土木(株)	加藤 正基		平成11年	付知土建(株)	三尾 秀和	理事
昭和42年	付知土建(株)	三尾 隆夫	会長	平成12年	西濃建設(株)	宗宮 正和	理事
昭和45年	(株)佐々木工務店	佐々木義広	理事	平成13年	金子工業(株)	金子 文一	理事
昭和47年	小坂建設(株)	小坂 藤松	理事	平成14年	(株)梅田組	梅田 安郎	理事
昭和48年	大栄土木(株)	松下 博	理事	平成15年	協立土建(株)	辻 哲夫	理事
昭和50年	新栄建設(株)	平井良太郎	副会長	平成16年	新栄建設(株)	高平 剛	副会長
昭和51年	金子工業(株)	金子 太一	理事	平成17年	(有)下仲組	下仲 國夫	理事
昭和52年	酒井建設(株)	酒井喜代吉	理事	平成18年	酒井建設(株)	酒井美奈子	理事
昭和54年	大日本土木(株)	奥村 辰一	副会長	平成19年	(株)梅田組	梅田 豊	理事
昭和55年	(株)梅田組	梅田 桂一	理事	平成20年	(株)所組	所 克仁	理事
昭和56年	西濃建設(株)	宗宮 和久		平成21年	(株)柳組	柳 七郎	理事
昭和57年	宮口建設(株)	宮口 久則	監事	平成22年	森本建設(株)	松葉 慶一	理事
昭和58年	武宮建設(株)	武市 寅雄	監事	平成23年	(株)林工務店	林 俊宏	理事
昭和59年	伊藤工業(株)	伊藤 甚一		平成24年	岩佐土木(株)	新井 雅	理事
昭和60年	(株)佐々木工務店	佐々木澄典	理事	平成25年	(株)長瀬土建	長瀬 雅彦	監事
昭和61年	(株)洞口	洞口 修平	理事	平成26年	加藤土木(株)	加藤 勝	理事
昭和62年	(株)水口土建	水口 秀雄	理事	平成27年	(株)安藤組	安藤 和央	副会長
昭和63年	(株)安藤組	安藤 勝啓	理事	平成28年	伊藤建設(株)	伊藤 甚宰	監事
平成元年	新栄建設(株)	高平 公嗣	副会長	平成29年	日下部建設(株)	日下部剛司	
平成2年	酒井建設(株)	酒井 真次	理事	平成30年	(株)水口土建	水口 斉	
平成3年	(株)秋山組	秋山 芳保	理事	令和元年	(株)佐々木工務店	佐々木典博	監事
平成4年	牛丸建設(株)	牛丸 吉雄	理事	令和2年	(株)加地工務店	加地 宣彦	
平成5年	森本建設(株)	森本 隆	理事	令和3年	大山土木(株)	大山 龍彦	
平成6年	(株)長瀬土建	長瀬 利治	理事	令和4年, 林野庁の表彰規程改正に合わせて林土連表彰規程も改正、以後10(5)周年毎の表彰となり推薦基準も改正された			
平成7年	(株)谷上組	谷上 辰雄	理事				
平成8年	(株)佐々木工務店	佐々木忠義	理事	令和6年	付知土建(株)	三尾秀和	会長
平成9年	小坂建設(株)	小坂 勝美	理事				

林土連会長賞表彰者

年 月	会 社 名	氏 名	会 社 名	氏 名
昭和48年	(株)佐々木工務店	佐々木義弘	(有)下仲 組	下仲 一夫
昭和49年	新栄建設(株)	平井良太郎	(株)梅田組	梅田 桂一
昭和50年	金子工業(株)	金子 太一	(有)加藤建設	加藤 虎雄
昭和51年	大日本土木(株)	奥村 辰一	酒井建設(株)	酒井喜代吉
昭和52年	宮口建設(株)	宮口 久則	(株)安藤組	安藤 富雄
昭和53年	小坂建設(株)	小坂 藤松	武宮建設(株)	武市 寅雄
昭和54年	岩佐土木(株)	岩佐 正六	(株)水口土建	水口太郎松
	大栄土木(株)	松下 勝昭		
昭和55年	(株)佐々木工務店	佐々木澄典		
昭和56年	(株)洞口	洞口 修平	西濃建設(株)	宗宮 和久
昭和57年	伊藤建設(株)	伊藤 甚一	(株)青木組	青木徳兵衛
昭和58年	(株)柳組	柳七郎右エ門	(株)谷上組	谷上 辰雄
昭和59年	森本建設(株)	森本 隆	今井建設(株)	今井 喜六
昭和60年	(株)秋山組	秋山 芳保	森建設(株)	森 利之
昭和61年	日太建設(株)	沖田 清	富建設(株)	中嶋 義隆
昭和62年	日新工業(株)	金子 甲三	(株)杉田組	杉田 立夫
昭和63年	(株)山下組	山下 寛	牛丸建設(株)	牛丸 吉雄
平成元年	(業)H・C建設	辻 哲夫	日下部建設(株)	日下部剛司
平成2年	富田屋土建(有)	所 英典	協会事務局	加藤 銈市
平成3年	安達建設(株)	安達 功	(株)橋本建設	橋本 克一
平成4年	(有)久保建設	久保 美國	(有)山田組	山田 利雄
平成5年	(株)長瀬土建	長瀬 利治	(株)西尾土木部	西尾 芳樹
平成6年	(株)林工務店	林 弘	(株)遠山建設	遠山 唯史
平成7年	松田建設(株)	大前 悦信	(株)加地工務店	加地 宣一
平成8年	田口土木(株)	田口 十一	(株)阿佐木土木	佐々木時男
平成9年	付知土建(株)	三尾 秀和	加永建設(株)	加藤 一雄
平成10年	(株)矢野土木	矢野 良雄	(株)所 組	所 豊
平成11年	(株)金明組	三田 秀吉	共和土木	堀 満
平成12年	小坂土建(株)	上野 弘平	(株)尾割組	尾張 洋介
平成13年	田中建設工業(株)	田中 義巳	今泉建設(株)	今泉 光俊
平成14年	(株)清水建設	清水 昭南	(株)技研ユニティ	古川 精次
平成15年	加藤土木(株)	加藤 勝	黒田建設(株)	黒田 妙子
平成16年	中越興業(株)	山下 頌雄	大山土木(株)	大山 龍彦
平成17年	ナガイ(株)	永井 善久	中島屋土建(株)	中島千恵子
平成18年	大高建設(株)	大橋 聡司	(株)東城	吉田 譲
平成19年	(株)安藤組	安藤 勝啓	(株)佐々木工務店	佐々木忠義
平成20年	宮口建設(株)	宮口 久喜	小坂建設(株)	小坂 勝美
平成21年	西濃建設(株)	宗宮 正和	金子工業(株)	金子 文一
平成22年	新栄建設(株)	高平 剛	岩佐土木(株)	新井 雅
平成23年	(株)所 組	所 克仁	(株)柳 組	柳 七郎
平成24年	森本建設(株)	松葉 慶一	(株)林工務店	林 俊宏
平成25年	小坂建設(株)	杉之下 豊	西濃建設(株)	五十君 正人
平成26年	(株)谷上組	谷上 祐志	(株)長瀬土建	長瀬 雅彦
平成27年	伊藤建設(株)	伊藤 甚幸	(株)中島工務店	中島 紀子
平成28年	(有)下仲組	下仲 真幸	酒井建設(株)	酒井 健吉
平成29年	(株)安藤組	安藤 和央	大山土木(株)	野中 豊
平成30年	安達建設(株)	安達 正彦	(株)杉田組	杉田 昌巳
令和元年	新栄建設(株)	高平 公輔	金子工業(株)	金子 広孝
令和2年	(株)技研ユニティ	八賀 重彦	(株)安藤組	安藤 智規
令和3年	(株)青木組	青木 良明	(株)梅田組	梅田 桂司
令和4年	加永建設(株)	加藤 仁徳	(株)矢野土木	矢野 克也
令和5年	松田建設(株)	松田 欣也	田口土木(株)	田口 宗甫
令和6年	ナガイ(株)	村上 勉	日下部建設(株)	岡崎 博文

林野庁治山・林道工事コンクール受賞者一覧

治山工事

年度	会社名	代表者
昭和42年	(株)佐々木工務店	佐々木義広
昭和43年	受賞なし	
昭和44年	小坂建設(株)	小坂 藤松
昭和45年	付知土建(株)	三尾 隆夫
昭和46年	酒井建設(株)	酒井喜代吉
昭和47年	(株)青木組	青木徳兵衛
昭和48年	受賞なし	
昭和49年	新栄建設(株)	平井良太郎
昭和50年	(株)柳組	柳七郎右エ門
昭和51年	(有)下仲組	下仲 一夫
昭和52年	(株)梅田組	梅田 桂一
昭和53年	西濃建設(株)	宗宮 和久
昭和54年	伊藤組	伊藤 甚一
昭和55年	小坂建設(株)	小坂 藤松
昭和56年	受賞なし	
昭和57年	(株)佐々木工務店	佐々木澄典
昭和58年	富田屋土建(有)	所 英典
昭和59年	武宮建設(株)	武市 寅雄
昭和60年	酒井建設(株)	酒井 真次
昭和61年	付知土建(株)	三尾 隆夫
昭和62年	森建設(株)	森 利之
昭和63年	伊藤工業(株)	伊藤 甚宰
平成元年	付知土建(株)	三尾 秀和
平成2年	協立土建(株)	辻 哲夫
平成3年	(株)梅田組	梅田 佳一
平成4年	共和土木	堀 満
平成5年	伊藤工業(株)	伊藤 甚宰
平成6年	(株)梅田組	梅田 佳一
平成7年	(株)梅田組	梅田 佳一
平成8年	付知土建(株)	三尾 秀和
平成9年	(株)林工務店	林 弘
平成10年	小坂建設(株)	小坂 勝美
平成11年	(株)杉田組	杉田 立夫
平成12年	田口土木(株)	田口 十一
平成13年	富田屋土建(株)	所 明子
平成14年	付知土建(株)	三尾 秀和
平成15年	能郷・谷建設共同企業体	佐藤 正之
平成16年	(株)長瀬土建	長瀬 雅彦
平成17年	(株)西尾土木部	西尾 強
平成18年	(株)長瀬土建	長瀬 雅彦
平成19年	(株)谷上組	谷上 祐志
平成20年	(株)中島工務店	中島 紀于
平成21年	(株)佐々木工務店	佐々木忠義
平成22年	(株)柳組	柳 七郎
平成23年	(株)中島工務店	中島 紀于
平成24年	協業組合H・C建設	前 弘一
平成25年	今泉建設(株)	今泉 光俊
平成26年	(株)長瀬土建	長瀬 雅彦
平成27年	(株)尾割組	尾割 洋介
平成28年	(有)下仲組	下仲 真幸
	(有)共和土木	堀 満
	中越興業(株)・宮口建設(株) 経常建設共同体	山下 頌雄
平成29年	(株)谷上組	杉浦 仁司
	金子工業(株)	金子 文一
平成30年	中越興業(株)・宮口建設(株) 経常建設共同体	山下 博
令和元年	新栄建設(株)	高平 公輔
令和2年	(有)共和土木	堀 豊次
令和3年	(株)加藤工務店	加藤政太郎
令和4年	西濃建設(株)	宗宮 郷
令和5年	受賞なし	
令和6年	新栄建設(株)	高平 公輔

林道工事

年度	会社名	代表者
太字は農林水産大臣賞		
昭和56年	付知土建(株)	三尾 隆夫
昭和57年	(株)梅田組	梅田 佳一
昭和58年	金子工業(株)	金子 太一
昭和59年	今井建設(株)	今井 喜六
昭和60年	(株)佐々木工務店	佐々木澄典
昭和61年	(資)谷上組	谷上 辰雄
昭和62年	(株)青木組	青木徳兵衛
昭和63年	(株)杉田組	杉田 立夫
平成元年	金子工業(株)	金子 四郎
平成2年	武宮建設(株)	武市 寅雄
平成3年	(有)橋本建設	橋本 克一
平成4年	金子工業(株)	金子 文一
平成5年	(株)安藤組	安藤 勝啓
平成6年	金子工業(株)	金子 文一
平成7年	(株)遠山建設	遠山 唯史
平成8年	(株)阿佐木土木	佐々木時男
平成9年	(株)佐々木工務店	佐々木忠義
平成10年	森建設(株)	森 利之
平成11年	(株)西尾土木部	西尾 芳樹
平成12年	受賞なし	
平成13年	(株)水口土建	水口 斉
平成14年	(株)安藤組	安藤 勝啓
平成15年	(株)梅田組	梅田 豊
平成16年	(株)梅田組	梅田 豊
平成17年	(株)水口土建	水口 斉
平成18年	中島・付知経常建設共同企業体	中島 紀于
平成19年	ナガイ(株)	永井 崇
平成20年	ナガイ(株)	永井 崇
平成21年	(株)水口土建	水口 斉
平成22年	松田建設(株)	松田 欣也
平成23年	受賞なし	
平成24年	橋本建設(株)	橋本 伸一
平成25年	大山土木(株)	野中 豊
平成26年	受賞なし	
平成27年	(株)林工務店	林 俊宏
平成28年	水口土建(株)	奥原 正一
平成29年	(株)熊崎組	熊崎 孔平
平成30年	大山土木(株)	野中 豊
令和元年	(株)中島工務店	中島 紀于
令和2年	受賞なし	
令和3年	(有)下仲組	下仲 真幸
令和4年	付知土建(株)	三尾 秀和
令和5年	受賞なし	
令和6年	(株)矢野土木	矢野 克也

先人に思いをはせる



三尾会長

〔事務局〕
事務局長
西尾利一

役員
会長 三尾隆夫
副会長 平井良太郎
理事 奥村辰一
加藤虎松
小坂藤
松田博
梅田桂一
金子太一
佐々木義広
辻永吉
下仲一夫
酒井喜代吉
青木徳造
西尾利一
宮口安藤
監事 柴田富雄
常務理事 安藤利一
理事代行 西尾利一
顧問 柴田富雄

柴田富雄 安藤利一 宮口安藤 西尾利一 青木徳造 西尾利一 酒井喜代吉 下仲一夫 辻永吉 佐々木義広 金子太一 梅田桂一 松田博 小坂藤 加藤虎松 奥村辰一 平井良太郎 三尾隆夫

富久利徳 喜代吉 一夫 永吉 義広 太一 桂一 博 藤松 辰一 良太郎 隆夫

付知土建 大日本土木 大日本土木 小坂藤建 大坂土木 金子工業 協立土木 酒井建 青木建 宮口建 柴田富雄 安藤利一 西尾利一

社団法人
名古屋林業土木協会

〔会 員〕
青木徳造 渡辺繁一 長瀬元吉 大山茂樹 秋山芳保 佐々木義広 谷上吉郎 柳七郎右衛門 沖田清三 洞吉三 辻永吉 加藤正男 小瀬正基 加藤賢太郎 森本一夫 山下孝 水野勤太郎 大江山 山崎寛 福田文雄 伊藤甚一 宮口久則 酒井喜代吉 平井良太郎

青木徳造 渡辺繁一 長瀬元吉 大山茂樹 秋山芳保 佐々木義広 谷上吉郎 柳七郎右衛門 沖田清三 洞吉三 辻永吉 加藤正男 小瀬正基 加藤賢太郎 森本一夫 山下孝 水野勤太郎 大江山 山崎寛 福田文雄 伊藤甚一 宮口久則 酒井喜代吉 平井良太郎

尾安藤 角割 加藤建 富田建 西濃建 大日本土木 山佳建 大栄建 付知建 曾我建 大脇建 武市建 今井建 梅田建 岩佐建 牛丸建 小坂建 日新工業 金子工業 森橋建 小坂建 水口建 尾安藤 角割 加藤建 富田建 西濃建 大日本土木 山佳建 大栄建 付知建 曾我建 大脇建 武市建 今井建 梅田建 岩佐建 牛丸建 小坂建 日新工業 金子工業 森橋建 小坂建 水口建

〔会 員 八 名〕

名古屋市西区外田町一 千四五一
電話名古屋(〇五二)五三一 三九六四

日頃感ずること

（社）名古屋林業土木協会会長 三尾 隆夫（付知土建株式会社社長）



私は昭和三十三年九月名古屋建設協会が設立されるや副会長に就任し、爾来その職につきましたが、昭和四十二年一月大日本土木株式会社取締役兼名古屋支店長田口栄氏が会長辞任されますと、後任として会長となり現在に至っております。

六十年代は月世界へ着陸した輝かしい年代でありましたが、日本経済も世界の人々が驚くほどの躍進をした年代でありました。私共の建設業界は近代化のテンポが遅く世論は前近代的であるとしてきびしく批判を加え、改善事項を指摘しております。

当協会について申し述べますと、この十年間に会員は倍となって五十名で構成し、昨年は国有林の工事のうち十億円を会員が施工したので一名当り二千万円であります。協会は任意団体から昭和四十年十月公益法人となりました。会員はこの団体を支えとして国有林の工事に専念しておりますが、内容は千差万別であります。

最近五社が倒産しましたが、その会社をみると、家族総ぐるみの会社であります。家族総ぐるみは利潤は高率であります但し次の欠点もあります。

- 一、社長は経営者として家族相手では充分能力を発揮することができなかったのではないか。
- 二、会社の経理もドンブリ勘定とまではいかなくても家族的でなかったか。
- 三、他社との競争に家族会社の弱さによる妥協が、会社の成績を思うように向上させなかったのではないか。

そこで七十年代を五十名の会員が足並を揃えて生き残るためには会員としての責任の重大性を痛感しています。吾々が繁栄するためには、もちろんその前に林野が繁栄して特別会計が豊かになることが必要であります。

私共の土建業の近代化は遅れているといわれる。しかし地理的環境が大きく支配しているから環境にそくした近代化を求めて発展したい。日頃考えている二、三を申し述べます。

- 一、前記倒産五社には色々事情があったことと思いますが、経営者としての支配能力、特に会社の経理については公私を混同しないよう法人としてこの経理に社長自らが徹して社員を指導する。
- 二、私共は国有林地元部落に居をかまえ、寒冷多雪地帯であり、年間の三分の一は休業している。従って機械化しても年間三分の二で償却することになる。機械化に力を入れ過ぎて機械に押しつぶされた同業者も多い。しからばチャーターすればというのが雪国の花は梅桃桜と一緒に咲くように工事関係も融雪をまって発注者は五~十一月をめどに一斉に入札が開始され、チャーターしようにも山の中までは中々機械は入ってこない。限られた機械を基に自己の能力に見合った工事量を確保する。やむを得ず十二月初めに一切の工事が完了するので精算に入り、年間の事業成績が(+)(-)で表現され、これを毎年繰り返しておりますが、機械の償却費に追いまわされている。
- 三、国有林所在地のへき地は過疎地帯となり、出役する労務者も男は六十歳以上の老令者か女子労務者である。次代の技能者を養成するには農山村の若者にとっては土建業は魅力がない。魅力ある職場にするためには給与の改善(年間雇傭を含めて)と、社会保障制度の改善を行ない、若い優秀技能者を育成することである。これには発注者の援助が必要である。

最後に私は七十年代にかけた一つの夢がある。それは現在の木造二階建の事務所を鉄筋コンクリートのビルにすることである。

現在、事務所の玄関には、日本木材信用協会、名古屋造林協会の看板が並んでいる。中部経済圏の中心地名古屋にビルを持つことは協会員の福利施設としても利用価値は充分あると思います。

(社) 名古屋林業土木協会 [会
二名員]

[役員]

副会長 理事長

常務理事 監事 顧問

三井隆夫 奥村辰一 加藤哲夫 小坂藤典 佐々木澄一 梅田桂一 金井修平 洞子太一 水下勝郎 安藤啓太郎 田中政次 酒井真市 加藤久則 宮口寅兵衛 武市久雄 柴田栄助

[事務局]

加藤銈市 事務局長



[会員]

新栄建設 酒井建設 宮口建設 伊藤金明 山田金明 富田建設 安達建設 中越興業 山下仲 森本事業所 加藤土木 加藤土木 久保建設 洞保建設 協立土木 日太建設 柳上 谷上 田中 秋山 林口 水口 青木 大木 大木 金長 金子 小坂 牛丸 岩佐 岩佐 高平 酒井 宮口 伊藤 福田 山田 中嶋 安達 山下 山田 福田 伊藤 宮口 酒井 高平 岩佐 高平 酒井 宮口 伊藤 福田 山田 中嶋 安達 山下 山田 福田 伊藤 宮口 酒井 高平

山田利雄 梅田桂一 今井喜六 武市寅雄 大脇此三郎 曾我良吉 日下部良吉 松田一郎 三尾隆夫 松下勝昭 西尾宗治 佐々木澄典 小坂藤松 森増造 橋本久次 瀬上久弥 安田梅吉 宗宮和久 川口金二 田中義民 所中 中島勝久 早川サチ子 加藤哲夫 尾崎正一 安藤勝啓 鈴木孝平 鈴木義雄 杉田立夫 遠山昇 鈴木隆弘 山田利雄 梅田桂一 今井喜六 武市寅雄 大脇此三郎 曾我良吉 日下部良吉 松田一郎 三尾隆夫 松下勝昭 西尾宗治 佐々木澄典 小坂藤松 森増造 橋本久次 瀬上久弥 安田梅吉 宗宮和久 川口金二 田中義民 所中 中島勝久 早川サチ子 加藤哲夫 尾崎正一 安藤勝啓 鈴木孝平 鈴木義雄 杉田立夫 遠山昇 鈴木隆弘

林土連設立20周年に寄せて（昭和55(1980)年1月発行）

ごあいさつ

名古屋林業土木協会副会長 奥村 辰一（大日本土木株式会社社長）

三尾会長が全国連合協会長のため、私が代りましてご挨拶を申し上げます。

林土連二〇周年、誠におめでとうございます。幾多の困難を克服して今日の林土連にまで発展されたことは、関係官庁のご指導と会員諸先輩のたゆまざるご努力と深く感謝の意を表す次第でございます。

名古屋の協会も林政統一の昭和二二年以降親睦的な集まりを再三に亘り結成すべく努力いたし昭和三一年名営山和会を発足させました。以来解散、結成を繰返しておりましたが、(株)大日本土木田口栄名古屋支店長(現副社長)が会長に就任するや、三尾現会長、平井副会長(新栄建設(株)会長)を主として各会員の皆さんに謀り、事務員を採用し協会づくりに本格的な活動を、開始いたしました。私も営業担当で、林業土木に関心を持ち、田口支店長の補佐として手足となって会の運営に協力いたしました。

昭和四〇年一〇月社団法人名古屋林業土木協会の認可があり、ここに確固たる協会が出来上りました。昭和四二年一月田口会長が社命により東京支店長に転任となり、現三尾会長が会長に就任致しました。副会長をお受けし今日に至っております。

名古屋営林局は愛知、岐阜、富山三県が管内となり旧御料林と国有林を三〇の営林署で管理しておりまして、細長く、高低差の大きい管内で、急峻な山地、急勾配で、特に日本海側は山足が短かく、激流の多い河川が目立っております。

日本特有の季節的降雨が集中し山地被害も発生し易い状態でございます。林業土木の会員はこの厳しい状況下にあつて長年にわたり習得した技術を発揮し、治山に、林道に力強く貢献いたしております。

林道の開設により林産物の搬出、育林、国有林の管理全般にわたる活動を、山を治めることによって国民生活や、産業活動に一刻も欠くことの出来ない重要な水の確保に努力しております。

諺に水は輸入できないといわれております。日本は降水量も多いため、水を山に溜め、必要な量を徐々に流出できれば万全の態勢であります。山に植林をし、堰堤を構築することにより、水の調整は可能なものと思われれます。会員は林業土木の使命を深く認識いたしまして、全員一致で治山、治水事業にご協力いたしたい覚悟でございます。

国においても数回に亘ります大洪水によって大被害をうけ、昭和三五年に治山、治水緊急措置法が制定され、台風、集中豪雨等によって発生する被害及び産業経済の発展に伴って水の需要が増大した水資源の確保のため、計画的に治山事業を進められることになりました。

一方林道については昭和四八年「閣議」決定されまして森林資源に関する基本計画に基いて、昭和五三年より昭和六七年までの一五年間に国有林林道18,800mを開設する計画が樹立され、地域山村経済への活用を含め、一般利用増大に対処し、林道が市町村林道と共に、地域社会発展の基盤となるものと信じます。

再三、同じことを繰返しますが、長年に亘り林業土木は山間僻地で、自然環境の厳しい中で、習得した技術は何人にも負けることはありません。又、日本の水を守る責任は私達会員の使命と思っております。ご当局のご理解と、ご指導によって、三〇周年には更に更に飛躍した林土連になることを確信しまして、ご挨拶といたします。

社団法人 名古屋林業土木協会



金子会長

雄喜市 寅久銈 市口藤 武宮加 事 局長 局 務 監事

[illegible]

会 員 (68名)

[illegible]

林土連30年の回顧と今後我々業界の進む道

（社）名古屋林業土木協会前会長 金子 太一（金子工業株式会社社長）



日本林業土木連合協会の30周年に当たり、思い出すままに30年前より現在に至るまでの思い出と今後林土連の会員の進路を探って見る事も意義があり、それについて今後の道の発想もよい方向が浮かんでくると存じます。

林野庁のもとで各営林(支)局に工事の発注を依存している林土連の会員の中には、我が地域の工事は私のものであると言うような安易な考えがあり独占意思が強い。他の地域は余り知らないが、当地方では営林局の御好意で協会を重視して会員優先指名して参加させ、大手等は参加させない温情的な指名に甘え、言いかえればお抱え大工的な存在であるために他を振り向こうともせずそのために他の業者は冷飯を食うと言う事になっていたようであるが、これは役所の親心を無為にした行為ではないかと残念に思う者の一人である。

その林野庁各営林(支)局は、現在経営的に大きな難関に向かっておられる。聴くところによると、1兆8千億と言う負債を持ち、経営改革に苦慮されておられ、以前は大きな収入源であった木材他林産物収入の大減収、特に外材が安く輸入され、木材の使用量の60~65%を占める状態であり、この外材生産国でも段々付加価値を高めるよう努力中であり、資源的にも減少、また地球的問題として緑の保存、環境保全等、内地材と外材とのバランスが取れて来る時期もあろうかと思うものであります。そうなくてはならない。国民1人1人が紙の使用量等の自粛を図るべきではないかと思えます。

この時点に際して、長年に亘ってお抱え大工的に面倒を見て頂いた営林(支)局に対して私達会員としてお返しをする時期である事を意識して進むべきであると存じます。

それと言うのは、営林(支)局は立木の立派な山も多くあり、またその半面、急峻な山岳地帯、景観の良い山様の地域、奥地として現在まで振り返られなかった山等、民有林としてはとても所有できない山々の管理経営をされ、水源涵養、山地保全等民間では手のでない所有価値のない山等を保有管理して、国土保全を図って来られたものであり、その管理をおこたれば数十年前の韓国の山、中国の山地の状態だと思えます。

<中略>

我が建設業が本業であります業界には、抱える大きな問題が山積しております。業界のイメージアップはどうしても進めねばなりません。若年作業技術者の参入を如何にして図るかということでもあります。労働時間、給料、休日制の問題、受注産業である私達は自ら開拓せねばならないことでもあります。

本年3月建設省が21世紀に向かって国民のニーズに応え、魅力と活力にあふれた建設産業への実現を目指すことを大目標に、建設産業構造改善の推進プログラムが決まった。この改善事業を3ヵ年で10事業実施に取り組むことになった。この計画も、実施の方向に諸種団体毎に真剣に取り組まねば、国民のニーズに合った業界には程遠いと思えます。

10種の中の1つ不良不適格業者の排除が重点課題の第1に上がっており、排除の目標にならないような業態造りをやっていきたいと考えております。

他の9課題はこの次の機会に書きたいと思えます。生意気な文面になったかも知れませんが、やらなくてはの信念で書きましたのでご理解をいただきたいと存じます。

林土連創立20周年記念「工事記録写真集」から



施 工 者 新 栄 建 設 (株) 代表取締役 平 井 良太郎

現場代理人 木 山 信 之

主任技術者 小 林 覚 政

場 所 富山県中新川郡上市町蓬沢外2ヶ村入会地

請負金額 30,524千円
工 種 コンクリート堰堤
数 量 本堰堤 1,299.3m³ 副堰堤 283.9m³
工 期 着工 昭和48年5月21日
完成 昭和48年10月22日



名古屋営林局富山営林署 末花谷復旧治山工事

施 工 者 酒 井 建 設 (株) 代表取締役 酒 井 真 次

現場代理人 坂 口 修 治

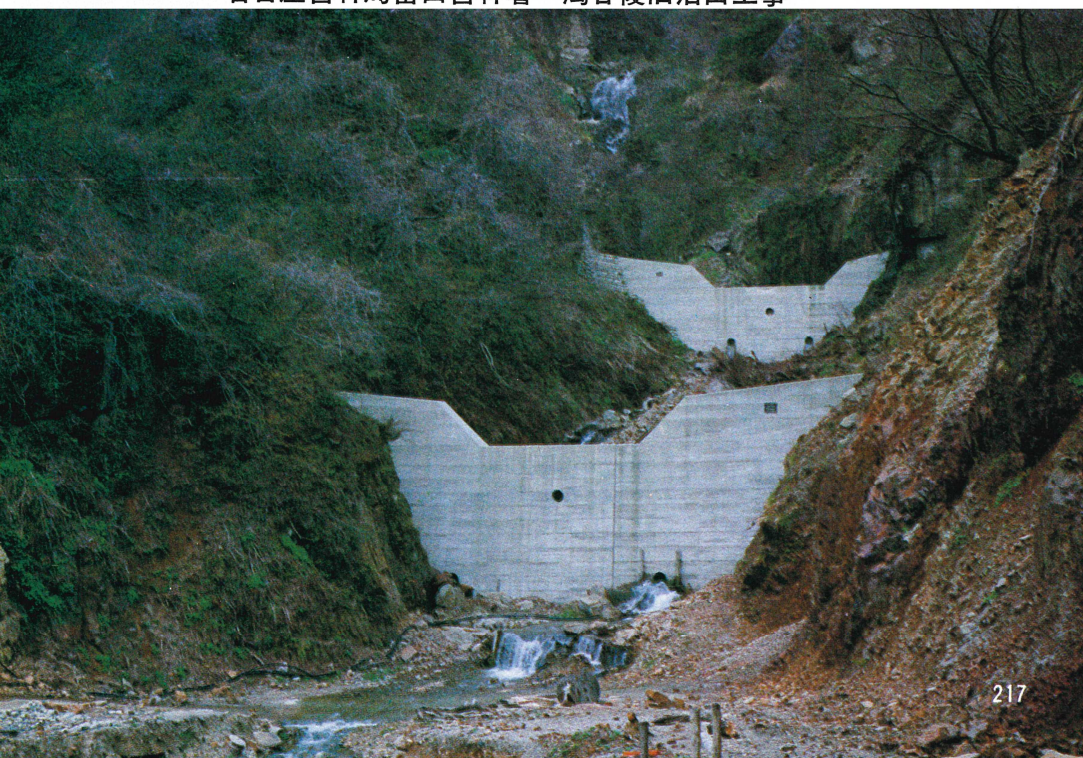
主任技術者 石 原 嵩

場 所 富山県中新川郡上市町伊折外6ヶ村入会地

名古屋営林局富山営林署 濁谷復旧治山工事



前社長



請負金額 46,551千円
工 種 コンクリート谷止
数 量 624.0m³
工 期 着工 昭和45年5月28日
完成 昭和45年11月20日



施工者 伊 藤 組 代表者 伊 藤 甚 一

現場代理人 伊 藤 外 成

主任技術者 坂 木 重 光

場 所 富山県魚津市三ヶ片貝国有林地内
請負金額 14,321千円
工 種 粗石コンクリート
数 量 2,015m³
工 期 着工 昭和41年 5 月25日
完成 昭和41年11月30日



名古屋営林局富山営林署 阿部木谷崩壊地復旧治山工事

施工者 (有) 下 仲 組 代表取締役 下 仲 一 夫

現場代理人 西 田 港 一

主任技術者 西 田 洋 右



名古屋営林局神岡営林署 左俣谷復旧治山工事



場 所 岐阜県古城郡上宝村神坂穂高国有林
請負金額 88,031千円
工 種 コンクリート堰堤
数 量 本堰堤 3,028.8m³ 副堰堤 719.4m³
工 期 着工 昭和49年 6 月 3 日
完成 昭和50年10月 2 日



施 工 者 (株) 柳 組 代表取締役 柳 七郎右衛門

現場代理人 岩 田 正 男

主任技術者 忍 昭 弘

場 所 岐阜県大野郡清見村大字森茂森茂国国有林

請負金額 20,762千円
工 種 鋼製谷止
数 量 21.9 t
工 期 着工 昭和49年 7 月16日
完成 昭和49年10月30日



名古屋営林局古川営林署 森茂三の谷復旧治山工事



施 工 者 (株) 水口土 建 代表取締役 水 口 秀 雄

現場代理人 水 口 秀 雄

主任技術者 岩 崎 民 雄

場 所 岐阜県大野郡朝日村胡桃島国国有林

名古屋営林局久々野営林署 胡桃島復旧治山工事

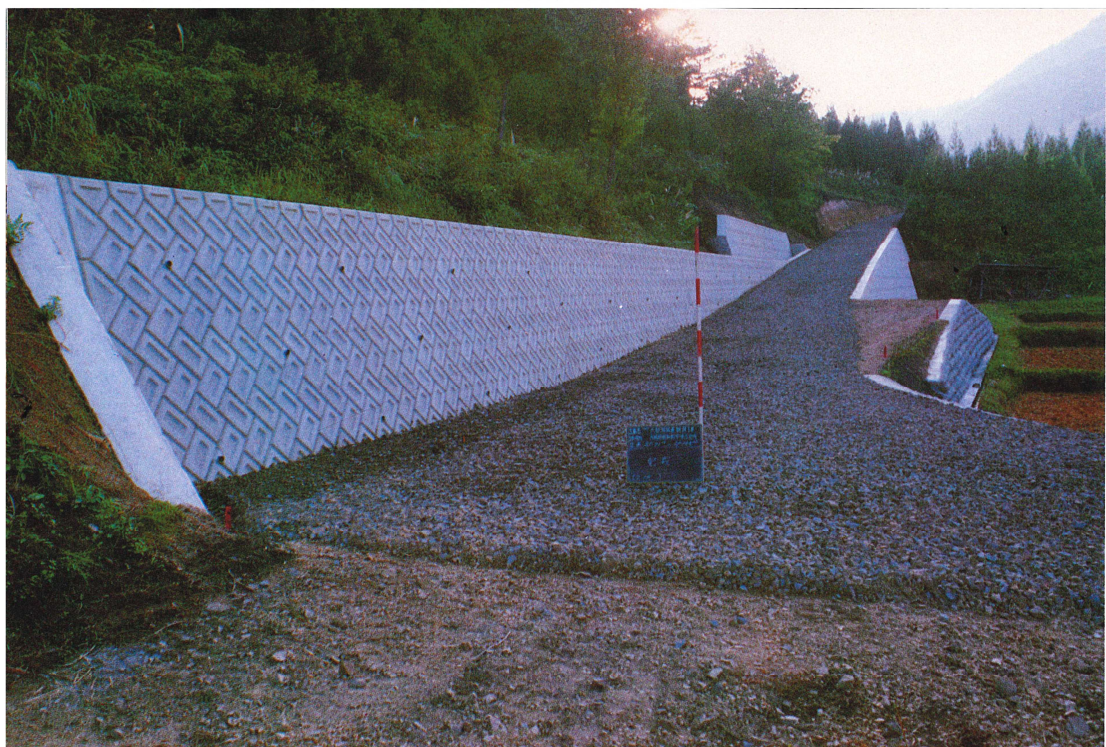


請負金額 10,075千円
工 種 コンクリート谷止
数 量 584.2m³
工 期 着工 昭和47年 6 月 1 日
完成 昭和47年10月 2 日



施工者 (資) 谷 上 組 代表社員 谷 上 辰 雄
現場代理人 谷 上 辰 雄
主任技術者 杉 浦 昭

場 所 岐阜県吉城郡国府町宇津江
請負金額 20,796千円
工 種 2級自動車道新設
数 量 延長 804m 幅員 3.6m
工 期 着工 昭和52年5月10日
完成 昭和52年10月15日



名古屋営林局古川営林署 六郎洞林道新設工事

施工者 金子工業(株) 代表取締役 金 子 太 一
現場代理人 高 野 洋一郎
主任技術者 大 林 利 美

名古屋営林局小坂営林署 小黒川(下)林道新設工事



場 所 岐阜県益田郡小坂町落合国有林
請負金額 39,219千円
工 種 2級自動車道新設
数 量 延長 600m 幅員 4.0m
工 期 着工 昭和50年6月20日
完成 昭和50年11月28日





施 工 者 (株) 梅 田 組 取締役社長 梅 田 桂 一
現場代理人 今 井 知 昭
主任技術者 坂 下 紀 夫

場 所 岐阜県益田郡馬瀬村本洞国有林
請負金額 26,921千円
工 種 2級自動車道新設
数 量 延長 826m 幅員 3.6m
工 期 着工 昭和52年6月21日
完成 昭和52年12月10日



名古屋営林局下呂営林署 西俣本谷林道新設工事

施 工 者 日下部建設(株) 代表取締役 日 下 部 良 吉
現場代理人 岡 崎 博 文
主任技術者 二 村 賢 三

名古屋営林局下呂営林署 長洞林道新設工事



場 所 岐阜県益田郡馬瀬村中切
請負金額 28,610千円
工 種 2級自動車道新設
数 量 延長 800m 幅員 3.6m
工 期 着工 昭和50年7月15日
完成 昭和50年12月15日





施 工 者 付 知 土 建 (株)

代表取締役

三 尾 隆 夫

現場代理人

熊 沢 敏 一

主任技術者

熊 沢 敏 一

場 所 岐阜県恵那郡加子母村加子母裏木曾国有林
請負金額 35,477千円
工 種 2級自動車道新設
数 量 延長 788m 幅員 4.0m
工 期 着工 昭和52年7月16日
完成 昭和52年12月18日



名古屋営林局付知営林署 牛首林道新設工事

施 工 者 (株) 杉 田 組

代表取締役

杉 田 立 夫

現場代理人

小 林 保 男

主任技術者

小 林 保 男

場 所 愛知県北設楽郡設楽町大字田峯段戸国有林

名古屋営林局新城営林署 裏谷駒ヶ原林道新設工事



請負金額 14,435千円

工 種 2級自動車道新設

数 量 延長 1,338m 幅員 3.6m

工 期 着工 昭和48年6月21日

完成 昭和48年11月30日

施 工 者 (株) 青 木 組 代表取締役 青 木 徳兵衛

現場代理人 清 水 源右工門

主任技術者 道 上 彦 栄

場 所 岐阜県大野郡久々野町阿多粕国有林



請負金額 8,083千円
工 種 コンクリート堰堤
数 量 521.1m³
工 期 着工 昭和46年 5 月16日
完成 昭和46年 8 月16日



名古屋営林局久々野営林署 阿多粕予防治山工事

1500448704



施 工 者 岩 佐 土 建

代 表 者 岩 佐 正 六

現場代理人 朝 原 昇

主任技術者 岩 佐 昭 二

場 所 岐阜県益田郡小坂町
落合国有林

請負金額 8,825千円

工 種 山腹工

数 量 0.96ha

工 期

着工 昭和46年 6 月 1 日

完成 昭和46年10月28日



名古屋営林局小坂営林署 榎谷復旧治山工事

施 工 者 (株)佐々木工務店 代表取締役 佐々木 澄 典

現場代理人 佐々木 時 男

主任技術者 吉 村 明 一

場 所 岐阜県中津川市阿木阿木恵那国有林



請負金額 15,071千円

工 種 鋼製堰堤

数 量 15.08 t

工 期 着工 昭和50年11月22日

完成 昭和51年2月17日



名古屋営林局中津川営林署 阿木川災害復旧治山工事



施 工 者 小 坂 建 設 (株) 代表取締役 小 坂 藤 松

現場代理人 杉 岡 正 人

主任技術者 岩 本 一 利

名古屋営林局荘川営林署 荒谷治山工事

場 所 岐阜県大野郡白川村

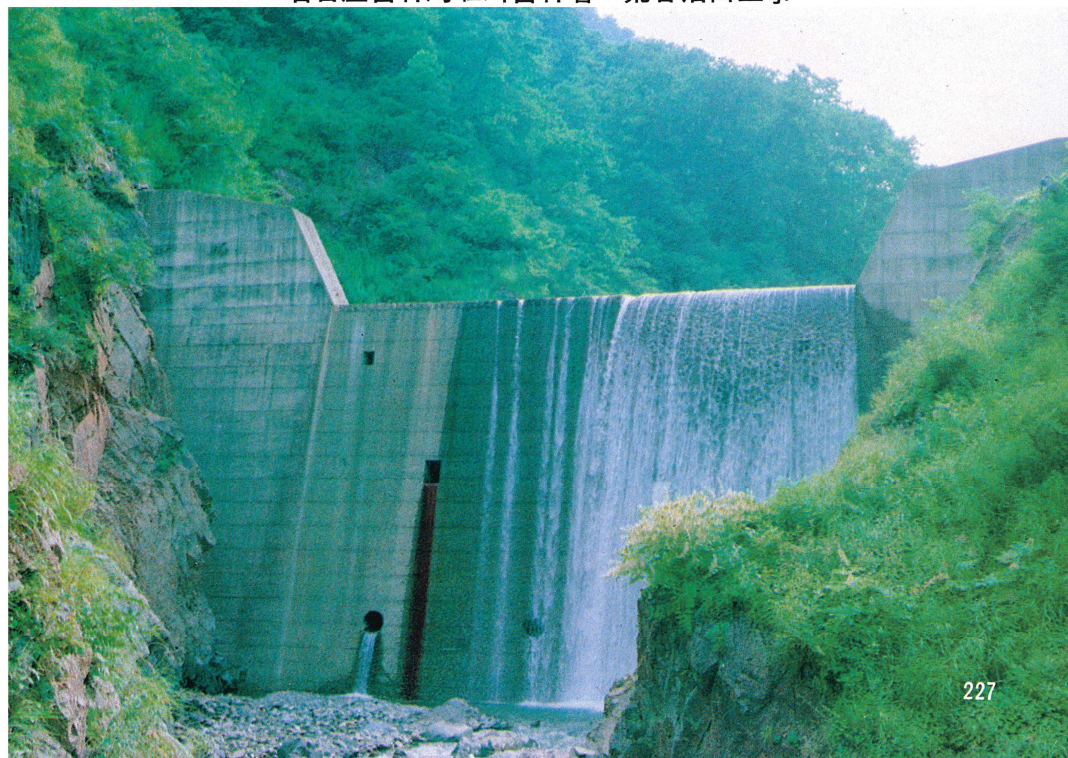
請負金額 22,803千円

工 種 コンクリート堰堤

数 量 3,034.6m³

工 期 着工 昭和44年5月15日

完成 昭和44年11月10日



施 工 者 森 建 設 (株) 代表取締役 森 増 造

現場代理人 谷 口 寛 治

主任技術者 森 利 之



名古屋営林局荘川営林署 間名古屋谷復旧治山工事

場 所 岐阜県大野郡白川村大白川
請負金額 14,366千円
工 種 コンクリート谷止
数 量 1,163m³
工 期 着工 昭和44年 5 月14日
完成 昭和44年11月10日



施 工 者 大 日 本 土 木 (株) 代表取締役 安 田 梅 吉

現場代理人 近 藤 弘

主任技術者 北 村 栄 蔵

場 所 岐阜県本巣郡根尾村大字能郷谷地内

請負金額 19,960千円
工 種 コンクリート堰堤
数 量 1,922m³
工 期 着工 昭和44年 5 月19日
完成 昭和44年11月20日



名古屋営林局岐阜営林署 能郷谷復旧治山工事

施 工 者 西 濃 建 設 (株) 代表取締役 宗 宮 和 久

現場代理人 所 伸一郎

主任技術者 所 公 生



名古屋営林局岐阜営林署 足打谷治山工事



場 所 岐阜県揖斐郡春日村足打谷国有林
請負金額 19,600千円
工 種 コンクリート堰堤
数 量 615.6m³
工 期 着工 昭和53年 2 月 6 日
完成 昭和53年 3 月28日



施 工 者 富 田 屋 土 建 (有) 代表取締役 川 口 金 二 郎

現場代理人 栗 本 保

主任技術者 栗 本 保



場 所 岐阜県揖斐郡徳山村大字白谷中津戸
請負金額 17,394千円
工 種 コンクリート堰堤
数 量 1,203m³
工 期 着工 昭和43年 5 月18日
完成 昭和43年10月20日

名古屋営林局岐阜営林署 白谷(中津戸谷)復旧治山工事

施 工 者 (有) 加 藤 建 設 代表取締役 加 藤 哲 夫

現場代理人 安 藤 鉄 雄

主任技術者 安 藤 鉄 雄



名古屋営林局岡崎営林署 百月(砂谷)復旧治山工事



場 所 愛知県西加茂郡小原村百月国有林
請負金額 12,258千円
工 種 コンクリート谷止
数 量 339.4m³
工 期 着工 昭和50年6月6日
完成 昭和50年10月8日



施 工 者 武 宮 建 設 (株) 代表取締役 武 市 寅 雄

現場代理人 武 市 敬 三

主任技術者 所 勲

場 所 愛知県西加茂郡小原村大ヶ蔵連国有林地内



請負金額 15,676千円
工 種 コンクリート谷止
数 量 203.2m³
工 期 着工 昭和48年7月30日
完成 昭和48年12月14日

名古屋営林局岡崎営林署 大ヶ蔵連(広沢外)復旧治山工事

**林土連創立30周年記念
「林土連30年の歩み」から**

**治山林道工事コンクール
農林水産大臣賞受賞工事
林野庁長官賞受賞工事**

農林水産大臣賞

住所 岐阜県益田郡萩原町萩原1500
電話 05765-2-1811

会社名 金子工業株式会社
代表 代表取締役 金子 四郎



名古屋営林支局小坂営林署 松尾小黑川（小黑川）林道新設工事

工事場所 岐阜県益田郡小坂町落
合国有林18林班

請負金額 20,500千円

数量 延長 500m

工期 着工 昭63. 5. 27

完成 昭63. 11. 15

現場代理人 廣瀬 晃 二

主任技術者 廣瀬 晃 二

工事コンクール受賞歴

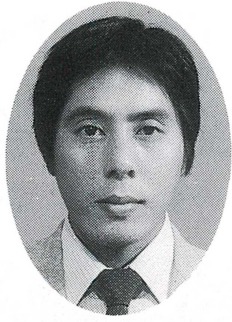
農林水産大臣賞（林道平元）

林野庁長官賞（林道59）

営林支局長賞（林道48, 52, 54

57, 62, 63）

林野庁長官賞受賞工事



住所 富山県魚津市島尻1346
電話 0765-32-8380

会社名 伊藤工業株式会社
代表 代表取締役 伊藤 甚 宰

工事場所 富山県魚津市三ヶ片貝
国有林

請負金額 97,735千円
⑥2 70,970千円
⑥3 26,765千円

工 種 コンクリート堰堤
数 量 2,526m³

工 期 着工 昭62. 7. 21
完成 昭62. 11. 4

現場代理人 伊 藤 外 成
主任技術者 坂 木 重 光

工事コンクール受賞歴

林野庁長官賞（治山63）

営林支局長賞（治山54, 56, 58）



名古屋営林支局富山営林署 南又谷(その2)復旧治山工事

住所 岐阜県益田郡下呂町野尻283
電話 05762-6-2026

会社名 株式会社 梅 田 組
代 表 代表取締役 梅 田 桂 一



工事場所 岐阜県益田郡下呂町
門原

請負金額 62,597千円

数 量 延長 1,768m

工 期 着工 昭56. 4. 29
完成 昭56. 12. 12

現場代理人 坂 下 紀 夫
主任技術者 渡 辺 保 純

工事コンクール受賞歴

林野庁長官賞（林道57）

営林支局長賞（治山54, 59, 61,
62）

（林道55, 56, 60）



名古屋営林支局下呂営林署 厚谷・神割(神割側)新設工事



住所 岐阜県益田郡下呂町少ヶ野461—1
電話 05762—5—3031

会社名 今井建設株式会社

代表 代表取締役 今井 喜六

工事場所 岐阜県益田郡萩原町
大ヶ洞
堂洞国有林167林班

請負金額 51,351千円

数量 延長 710m

工期 着工 昭58. 5. 3
完成 昭58. 11. 28

現場代理人 奥田 春一

主任技術者 福井 好隆

工事コンクール受賞歴

林野庁長官賞（林道59）

営林支局長賞（林道58）



名古屋営林支局下呂営林署 堂洞林道新設工事

住所 岐阜県中津川市阿木
電話 0573—63—2236

会社名 株式会社佐々木工務店

代表 代表取締役 佐々木 忠義



工事場所 岐阜県恵那郡上矢作町
上村恵那国有林61林班

請負金額 46,890千円

数量 延長 998m

工期 着工 昭59. 5. 3
完成 昭59. 12. 8

現場代理人 佐々木 忠義

主任技術者 鈴木 順一

工事コンクール受賞歴

林野庁長官賞（治山57）

（林道60）

営林支局長賞（治山62）

（林道61）



名古屋営林支局中津川営林署 桧根林道新設工事



住所 岐阜県吉城郡古川町貴船町14番29号
電話 05777-3-2256

会社名 株式会社 谷 上 組
代 表 代表取締役 谷 上 辰 雄

工事場所 岐阜県吉城郡国府町
瓜巢
保木協国有林228林班

請負金額 21,024千円

数 量 延長 500m

工 期 着工 昭60. 5. 28
完成 昭60. 9. 20

現場代理人 杉 浦 昭

主任技術者 杉 崎 伸 児

工事コンクール受賞歴

林野庁長官賞 (林道61)

営林支局長賞 (林道51, 52, 53,
54, 55, 58, 59,
60)

(治山49, 50)



名古屋営林支局古川営林署 瓜巢林道新設工事

住所 岐阜県大野郡久々野町大字無数河1030
電話 057752-2106

会社名 株式会社 青 木 組
代 表 代表取締役 青 木 徳兵衛



工事場所 岐阜県大野郡高根村
野麦
野麦国有林138林班

請負金額 20,389千円

数 量 延長 900m

工 期 着工 昭61. 4. 26
完成 昭61. 9. 27

現場代理人 梨 本 岳 義

主任技術者 桐 田 一 雄

工事コンクール受賞歴

林野庁長官賞 (林道62)

営林支局長賞 (林道55, 56, 57)
(治山59, 61)



名古屋営林支局久々野営林署 脇谷林道新設工事



住所 岐阜県大野郡白川村平瀬396—22
電話 05769—5—2346

会社名 小坂建設株式会社
代表 代表取締役 小坂 藤 松

工事場所 岐阜県大野郡白川村
萩町 大瀬戸国有林

請負金額 55,557千円
内 9,581千円

工 種 コンクリート谷止
数 量 219m³

工 期 着工 昭54. 5. 1
完成 昭54. 11. 14

現場代理人 岩 本 一 利
主任技術者 村 瀬 秀 雄

工事コンクール受賞歴

林野庁長官賞（治山55）

営林支局長賞（治山55, 57, 60,
63）



名古屋営林支局荘川営林署 大瀬戸（保谷）復旧治山工事

住所 岐阜県本巣郡根尾村板所622
電話 058138—2535

会社名 富田屋土建有限会社
代 表 代表取締役 所 英 典



工事場所 岐阜県本巣郡根尾村

請負金額 49,637千円

工 種 鋼製自在枠堰堤

数 量 57.609 t

工 期 着工 昭57. 5. 10

完成 昭57. 9. 5

現場代理人 野 原 英 一

主任技術者 杉 本 宗 次

工事コンクール受賞歴

林野庁長官賞（治山58）

営林支局長賞（治山56, 63）



名古屋営林支局岐阜営林署 越波（河内谷）復旧治山工事



住所 愛知県北設楽郡稲武町大字稲橋字中シモ田3-6
電話 05368-2-2012

会社名 株式会社 杉 田 組
代 表 代表取締役 杉 田 立 夫

工事場所 愛知県北設楽郡津具村
桧山桧原国有林181,
182林班

請負金額 21,932千円

数 量 延長 420m

工 期 着工 昭62. 6. 2

完成 昭62. 10. 20

現場代理人 杉 田 明 吉

主任技術者 堀 英 介

工事コンクール受賞歴

林野庁長官賞（林道63）

営林支局長賞（林道61）



名古屋営林支局新城営林署 桧原山林道新設工事

住所 富山県中新川郡上市町下経田226
電話 0764-72-0222

会社名 酒井建設株式会社
代 表 代表取締役 酒 井 眞 次



工事場所 富山県中新川郡上市町
伊折外6ヶ村入会地

請負金額 63,706千円

内 18,848千円

工 種 コンクリート堰堤

数 量 563m³

工 期 着工 昭59. 5. 10

完成 昭59. 10. 30

現場代理人 石 黒 平太郎

主任技術者 北 野 博 之

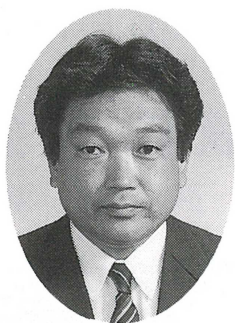
工事コンクール受賞歴

林野庁長官賞（治山60）

営林支局長賞（治山55）



名古屋営林支局富山営林署 西又谷復旧治山工事



住所 岐阜県恵那郡付知町5068—3
電話 0573—82—4111

会社名 付知土建株式会社
代表 代表取締役 三 尾 秀 和

工事場所 岐阜県恵那郡加子母村
加子母裏木曾国有林
請負金額 42,500千円
工 種 コンクリート谷止
数 量 963m³
工 期 着工 昭60. 5. 21
完成 昭60. 10. 28

現場代理人 三 尾 長 平
主任技術者 三 尾 長 平

工事コンクール受賞歴

林野庁長官賞 (林道56)
(治山61)
営林支局長賞 (治山54, 57, 59,
60, 63)
(林道54, 55, 56,
57, 58, 62)



名古屋営林支局付知営林署 高樺復旧治山工事

住所 岐阜県大野郡荘川村牧戸1281
電話 05769—2—2634

会社名 森建設株式会社
代表 代表取締役 森 利 之



工事場所 岐阜県大野郡白川村
木木谷帰雲国有林

請負金額 39,235千円

工 種 コンクリート谷止
数 量 745m³

工 期 着工 昭61. 5. 7
完成 昭61. 9. 30

現場代理人 谷 口 寛 治
主任技術者 谷 口 寛 治

工事コンクール受賞歴

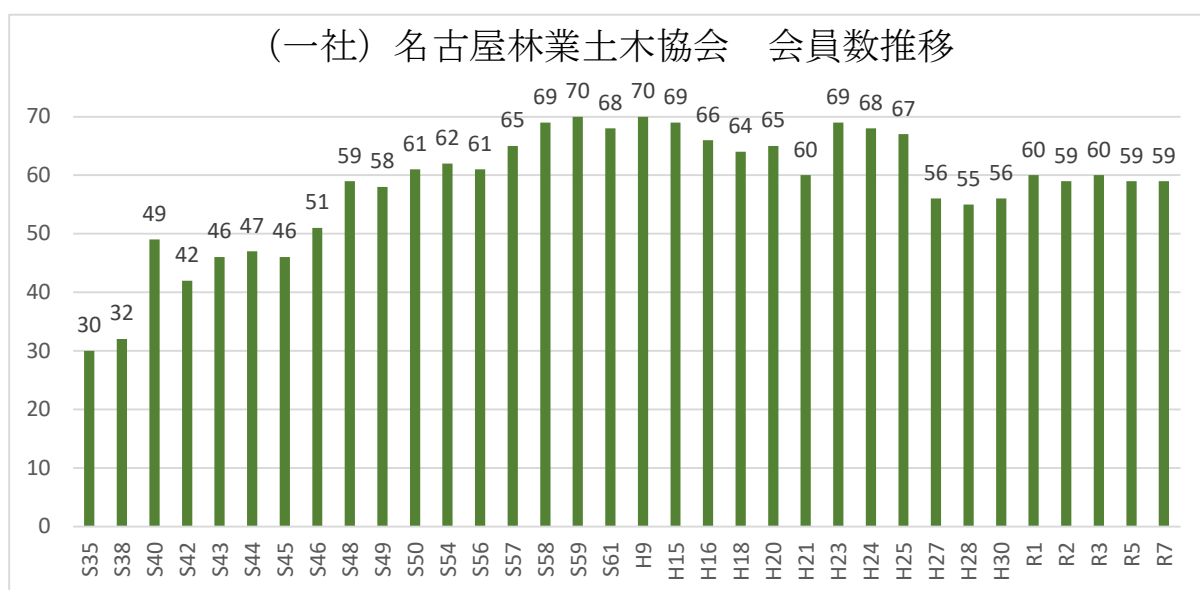
林野庁長官賞 (治山62)
営林支局長賞 (林道58, 61)
(治山59)



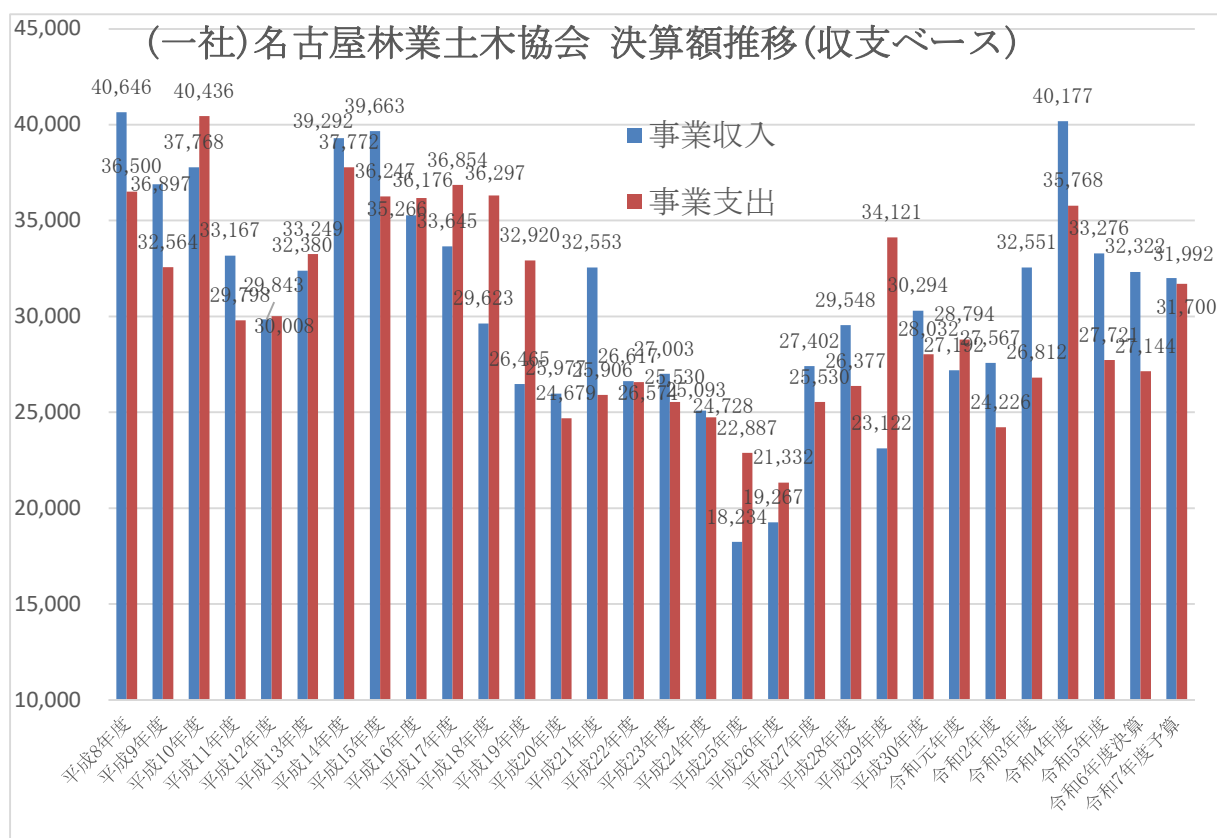
名古屋営林支局荘川営林署 帰雲(名古屋)復旧治山工事

参考データ

(一社) 名古屋林業土木協会 会員数推移



(一社) 名古屋林業土木協会 決算額推移(収支ベース)



注) R7 年度は当初予算額を掲上
R4 年度は林土連現地研修会名古屋開催

○名古屋林業土木協会ホームページURL
<https://mori-mori.co.jp/>

